

薬事・食品衛生審議会
平成22年度第2回血液事業部会献血推進調査会
議事次第

平成22年11月9日(火) 16時～18時
於：厚生労働省共用第7会議室(5階)
東京都千代田区霞が関1-2-2

議 事

- 1 「献血構造改革」の総括について
- 2 新たな中期目標の設定について
- 3 平成23年度献血推進計画案について
- 4 普及啓発活動の評価について
- 5 その他

資 料

座席表

委員名簿

- 1 「献血構造改革」の結果について(案)
- 2 献血推進に係る新たな中期目標について ～献血推進2014～(案)
- 3-1 平成23年度献血推進計画(案)
- 3-2 献血推進計画 新旧対照表
- 4-1 テレビによる広報の活動実績(含む日赤)
- 4-2 ホップステップジャンプ(高校生向け教材)のアンケート結果
- 4-3 平成22年度子ども霞が関見学デー「模擬献血体験」報告書
- 4-4 受血者が見える広報の取り組み(日赤)
- 4-5 絵本による広報(日赤)
- 4-6 積極的な広報戦略の実施内容(日本赤十字社の取り組み)(日赤)
- 4-7 日本赤十字社における広報評価(日赤)

参考資料

- 1 高校献血の都道府県別実施状況(日赤)
- 2 大学における献血実施状況(日赤)
- 3 10代の年齢別献血率(日赤)
- 4 都道府県別献血率の推移(日赤)
- 5 諸外国における献血の状況

「献血構造改革」の結果について（案）

平成 22 年 11 月 9 日

1. 経緯

少子高齢社会における血液の安定した供給体制を構築するため、平成 17 年度から、以下の 3 つの達成目標を掲げ、「献血構造改革」を推進してきた。

2. 「献血構造改革」の結果

項目	目標	H17 年度	H21 年度
(1) 若年層の献血者数の増加	10 代、20 代を献血者全体の 40% まで上昇させる	33.4%	26.8%
(2) 安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力する企業を倍増させる	24,220 社	43,193 社
(3) 複数回献血の増加	複数回献血者を献血者全体の 35% まで上昇させる	27.5%	31.3%

(1) 若年層の献血者数については、様々な取組みにも関わらず、平成 17 年度に比較し、むしろ減少する結果となった。この要因として、10 代、20 代の人口の減少が挙げられるが、10 代については人口減少の速度を上回る速度で献血者が減少しており（10 代の献血率：平成 17 年度 8.1%→平成 21 年度 6.0%）、献血に触れあう機会の減少等が影響しているものと考えられる。一方で 20 代については、平成 19 年度まで減少傾向が続いたが、平成 20、21 年度の献血率は、前年を上回る結果となった。今後、若年層の献血者減少の要因をより詳細に分析・評価するとともに、10 代へ効果的な働きかけを行うことが、重要な課題となる。

(2) 企業献血については、目標値に到達しなかったものの、厳しい経済環境下にも関わらず、順調に増加してきた。「献血サポーターロゴマーク」についても、平成 18 年度末の 1,454 社から平成 21 年度末には 6,130 社まで配布企業が増加している。安定的な集団献血を確保する観点から、献血にご協力いただける企業を増やすことは、引き続き重要な取組みとなる。

(3) 複数回献血者については、目標値に到達しなかったものの、着実に増加してきた。安定供給のみならず、血液の安全性の向上の観点からも、複数回献血者を更に増加させることは、重要な取組みとなる。

3. 今後の取組み

献血構造改革の結果を踏まえ、新たな中期目標のもと、引き続き献血推進に取り組むこととする。

献血推進に係る新たな中期目標について
～献血推進 2014～（案）

平成 22 年 11 月 9 日

1. 目的

少子高齢社会における血液の安定した供給体制を構築するため、平成 17 年度から 5 年間実施した「献血構造改革」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、平成 26 年（2014 年）度までの達成目標を設定し、献血推進を行う。[献血推進 2014]

2. 平成 26 年（2014 年）度までの達成目標

項目	目標	H21 年度
若年層の献血者数の増加	10 代（注 1）の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.0%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.8%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力頂ける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	43,193 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	984,766 人

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下に掲げる事項に重点的に取り組む。

① 受血者の顔が見える取組み

献血血液の医療現場での使用状況について、国民が十分承知しているとは言い難い状況にあり、また、その理解を進めることが、献血意識を高めるという調査報告がある。献血推進にあたっては、受血者の顔が見える取組を一層強化する。

② 10 代への働きかけ

平成 23 年 4 月 1 日の採血基準の改定及び平成 21 年 7 月改訂高等学校学習指導要領解説保健体育編における「献血」に関する記載を踏まえ、10 代に対する献血への理解を深める取組みを強化する。また、200ml 献血のあり方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を進める。

平成 2 3 年度の献血の推進に 関する計画（案）

平成 2 3 年 月 日

厚生労働省告示第 号

目次

前文	1
第1節 平成23年度に献血により確保すべき血液の目標量	1
第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項	1
1 献血に関する普及啓発活動の実施	1
(1) 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進	
(2) 献血運動推進全国大会の開催等	
(3) 献血推進運動中央連絡協議会の開催	
(4) 献血推進協議会の活用	
(5) その他関係者による取組	
2 献血者が安心して献血できる環境の整備	5
第3節 その他献血の推進に関する重要事項	5
1 献血の推進に際し、考慮すべき事項	5
(1) 血液検査による健康管理サービスの充実	
(2) 献血者の利便性の向上	
(3) 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進	
(4) 採血基準の在り方の検討	
(5) まれな血液型の血液の確保	
2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応	6
3 災害時等における献血の確保等	6
4 献血推進施策の進捗 ^{ちよく} 状況等に関する確認と評価	6

平成23年度の献血の推進に関する計画

前文

- ・ 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第1項の規定に基づき定める平成23年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成20年厚生労働省告示第326号）に基づくものである。

第1節 平成23年度に献血により確保すべき血液の目標量

- ・ 平成23年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、全血製剤〇万リットル、赤血球製剤〇万リットル、血漿製剤〇万リットル、血小板製剤〇万リットルであり、それぞれ〇万リットル、〇万リットル、〇万リットル、〇万リットルが製造される見込みである。
- ・ さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成23年度には、全血採血による〇万リットル及び成分採血による〇万リットル（血漿採血〇万リットル及び血小板採血〇万リットル）の計〇万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成23年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進するとともに、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、対象となる年齢層や地域の実情に応じた啓発及び献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全性に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。

このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解と献血への協力を呼びかけることが求められる。

- ・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等により、血液製剤がこれが必要とする患者への医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血や血液製剤についての普及啓発を実施し、又はこれに協力することが必要である。
- ・ 少子高齢化の進行による血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。
- ・ 血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。
- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成22年1月27日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成23年4月1日に施行される採血基準の改正について、国民に対して広報を十分行い、献血への協力を求める必要がある。
- ・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

<若年層を対象とした対策>

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。
- ・ 若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、効果的な取組が必要である。
- ・ 特に10代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り400ミリリットル全血採血が17歳から可能となること等について情報を伝え、献血者の協力を得る。
- ・ 子が幼少期にある親子に対し、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、地域の特性に応じて採血所に託児体制を確保する等、親子が献血に触れ合う機会を設ける。
- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材や中学生を対

象とした血液への理解を促すポスターを作成し、都道府県、市町村及び採血事業者と協力して、これらの教材等を活用しながら、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。

- ・ 都道府県及び市町村は、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等において、ボランティア活動推進の観点を踏まえつつ献血や血液製剤についての情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血出前講座」や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村及び献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血ボランティアとの更なる連携を図り、大学等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になるうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

<50～60歳代を対象とした対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある50～60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。
- ・ 血小板成分採血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで（ただし、65歳から69歳までの方については、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限る）可能となることについて情報を伝え、献血者の確保を図る。

<企業等における献血の推進対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

<複数回献血者対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに

に、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

＜献血推進キャンペーン等の実施＞

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。
- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催し物の機会等を活用するなど、積極的に取り組むことが望ましい。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し表彰を行う。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的で開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易

にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- ・ 採血事業者は、特に初回献血者が抱えている不安等を払拭するため、採血の手順や採血後の過ごし方等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- ・ 採血事業者は、採血所における地域の特性に合わせたイメージ作りや移動採血車の外観の見直し等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- ・ 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・ 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低色素により献血ができなかった献血申込者に対して栄養士による健康相談を実施し、献血者の増加を図る。
- ・ 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実が献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・ 採血事業者は、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実を図る。
- ・ 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者

の本人確認の徹底等の検査目的の献血の防止のための措置を講ずる等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方の検討

- ・ 国は、200ミリリットル全血採血の在り方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を行う。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行うとともに、製造販売業者等の関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れに協力する。

4 献血推進施策の進捗^{ちよく}状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的又は長期的な効果及び進捗^{ちよく}状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活

用する。

平成 2 3 年度献血推進計画 (案)	平成 2 2 年度献血推進計画
<p>前文</p> <ul style="list-style-type: none"> 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 0 号）第 1 0 条第 1 項の規定に基づき定める平成 2 3 年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成 2 0 年厚生労働省告示第 3 2 6 号）に基づくものである。 <p>第 1 節 平成 2 3 年度に献血により確保すべき血液の目標量</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 2 3 年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、全血製剤〇万リットル、赤血球製剤〇万リットル、血漿製剤〇万リットル、血小板製剤〇万リットルであり、それぞれ〇万リットル、〇万リットル、〇万リットル、〇万リットルが製造される見込みである。 さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成 2 3 年度には、全血採血による〇万リットル及び成分採血による〇万リットル（血漿採血〇万リットル及び血小板採血〇万リットル）の計〇万リットルの血液を献血により確保する必要がある。 	<p>前文</p> <ul style="list-style-type: none"> 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 0 号）第 1 0 条第 1 項の規定に基づき定める平成 2 2 年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成 2 0 年厚生労働省告示第 3 2 6 号）に基づくものである。 <p>第 1 節 平成 2 2 年度に献血により確保すべき血液の目標量</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 2 2 年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、全血製剤 0. 0 2 万リットル、赤血球製剤 5 1 万リットル、血漿製剤 2 6 万リットル、血小板製剤 1 6 万リットルであり、それぞれ 0. 0 2 万リットル、5 2 万リットル、2 6 万リットル、1 6 万リットルが製造される見込みである。 さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成 2 2 年度には、全血採血による 1 3 9 万リットル及び成分採血による 6 3 万リットル（血漿採血 3 0 万リットル及び血小板採血 3 3 万リットル）の計 2 0 2 万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成23年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進するとともに、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、対象となる年齢層や地域の実情に応じた啓発及び献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全性に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解と献血への協力を呼びかけることが求められる。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成22年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進するとともに、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、対象となる年齢層や地域の実情に応じた啓発及び献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全性に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解と献血への協力を呼びかけることが求められる。

・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等により、血液製剤がこれが必要とする患者への医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血や血液製剤についての普及啓発を実施し、又はこれに協力することが必要である。

・ 少子高齢化の進行による血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。

・ 血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成22年1月27日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成23年4月1日に施行される採血基準の改正について、国民に対して広報を十分行い、献血への協力を求める必要がある。

・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、血液製剤がこれを必要とする患者への医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血や血液製剤についての普及啓発を実施し、又はこれに協力するとともに、少子高齢化の進行による血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の発生に伴う献血制限等の献血をめぐる環境の変化、血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。また、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成22年1月27日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成23年4月1日に施行される採血基準の改正について、国民に対して広報を十分行い、献血への協力を求める必要がある。

・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

<若年層を対象とした対策>

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。
- ・ 若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、効果的な取組が必要である。
- ・ 特に10代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り400ミリリットル全血採血が17歳から可能となること等について情報を伝え、献血者の協力を得る。
- ・ 子が幼少期にある親子に対し、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、地域の特性に応じて採血所に託児体制を確保する等、親子が献血に触れ合う機会を設ける。
- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材や中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、都道府県、市町村及び採血事業者と協力して、これらの教材等を活用しながら、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等において、ボラン

<若年層を対象とした対策>

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。
- ・ 若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、効果的な取組が必要である。
- ・ 子が幼少期にある親子に対し、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、地域の特性に応じて採血所に託児体制を確保する等、親子が献血に触れ合う機会を設ける。
- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材や中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、都道府県、市町村及び採血事業者と協力して、これらの教材等を活用しながら、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等において、ボラン

ティア活動推進の視点を踏まえつつ献血や血液製剤についての情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。

- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血出前講座」や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村及び献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血ボランティアとの更なる連携を図り、大学等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になろうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

<50～60歳代を対象とした対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある50～60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。
- ・ 血小板成分採血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで（ただし、65歳から69歳までの方については、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限る）可能となることについて情報を伝え、献血者の確保を図る。

ティア活動推進の視点を踏まえつつ献血や血液製剤についての情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。

- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血出前講座」や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村及び献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血ボランティアとの更なる連携を図り、大学等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になろうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

<50～60歳代を対象とした対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある50～60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。

<企業等における献血の推進対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

<複数回献血者対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

<献血推進キャンペーン等の実施>

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広

<企業等における献血の推進対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

<複数回献血者対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

<献血推進キャンペーン等の実施>

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広

報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。

- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催し物の機会等を活用するなど、積極的に取り組むことが望ましい。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し表彰を行う。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的を開催することが求められ

報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。

- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者は、これらの献血推進活動を実施することが重要である。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し表彰を行う。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的を開催することが求められ

る。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。

- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮するなど、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受人体制の改善に努める。また、献血者の個人情報を保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- ・ 採血事業者は、特に初回献血者が抱いている不安等を払拭するため、採血の手順や採血後の過ごし方等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- ・ 採血事業者は、採血所における地域の特性に合わせたイ

る。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。

- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮するなど、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受人体制の改善に努める。また、献血者の個人情報を保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- ・ 採血事業者は、採血所における地域の特性に合わせたイ

メージ作りや移動採血車の外観の見直し等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。

- ・国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認して、その結果を通知する。また、低色素により献血ができなかった献血申込者に対して栄養士による健康相談を実施し、献血者の増加を図る。
- ・国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実が献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・採血事業者は、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実を図る。
- ・都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移

メージ作りや移動採血車の外観の見直し等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。

- ・国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認して、その結果を通知する。また、低比重により献血ができなかった献血申込者に対して栄養士による健康相談を実施し、献血者の増加を図る。
- ・国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実が献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・採血事業者は、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実を図る。
- ・都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移

動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入に協力することが重要である。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底等の検査目的の献血の防止のための措置を講ずる等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方の検討

- ・ 国は、200ミリリットル全血採血の在り方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を行う。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国

動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入に協力することが重要である。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底等の検査目的の献血の防止のための措置を講ずる等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しを行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国

及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行うとともに、製造販売業者等の関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れに協力する。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的又は長期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評

及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行うとともに、製造販売業者等の関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れに協力する。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的又は長期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評

価を行い、献血の推進に活用する。

価を行い、献血の推進に活用する。

献血推進に係る政府広報テレビ番組（平成 21 年度厚労省実施分）

●「峰竜太のナッ得！ニッポン」*番組は現在終了

タイトル : 『広げよう！献血の輪！～献血が貴い命を救う～』
 放送日時 : 2009年10月30日（金）21：30～22：00
 放送局 : BS朝日
 放映内容 : 番組前半は、献血ルームの紹介や血液センターの検査・製剤業務の紹介を通して、献血の仕組みや安全性について説明をするもの。また、後半では、敗血症を克服した女の子とそのお母様への取材により、輸血によって救われている命についてふれることで、献血の意義を伝えるもの。

●「キク！みる！」*番組は現在終了

タイトル : 『若年層の献血参加～はたちの献血～』
 放送日時 : 2010年1月15日（金）22：55～22：58
 放送局 : フジテレビ、関西テレビ
 放映内容 : 献血ルームの紹介し、視聴者に最近の献血ルームの雰囲気を感じてもらおうとともに、ラクロス協会の献血推進ボランティアの学生たちを取材することで、特に若年層の献血に対する意識を喚起するもの。（「はたちの献血キャンペーン」にあわせた広報として実施した。）

●「中西哲生の Just Japan」*番組は現在終了

タイトル : 『“献血”でつなぐ命の輪』
 放送日時 : 2010年1月30日（土）22：00～22：30
 放送局 : テレビ神奈川、その他ネット局（首都圏・近畿圏・中部圏 UHF13 局）
 インターネット放送
 放映内容 : 番組前半は、献血ルームの取材により、献血の仕組みや最近の献血ルームの雰囲気を知ってもらうもの。また後半は、大学病院の取材により、献血で集められた血液がどのように使用されているのかに焦点をあて、献血の重要性を呼びかけるもの。

※テレビ神奈川HPにて動画配信しております。（2010年10月7日現在）

<http://www.tvk-bb.tv/justjapan/2010/01/30/>

テレビによる広報の活動実績（平成21年度日赤実施分）

1 平成22年「はたちの献血」キャンペーン（平成22年1月）

番組提供《全国放送》

放送局	番組名	曜日	放送時間
日本テレビ	江川×堀尾のSUPERうるぐす	土	23時55分～24時35分
TBS	S☆1 スパサカ	土	24時00分～24時58分
フジテレビ	LIVE2010 ニュース&すぽると	土	24時15分～25時05分
テレビ朝日	天才をつくる!ガリレオ脳研	土	19時54分～20時51分

※ 上記番組中に30秒のCMを1回又は2回放映したこと。

2 欧州等滞在歴（英国滞在歴）の献血制限緩和措置周知（平成22年3月）

(1) 番組提供《全国放送》

放送局	番組名	曜日	放送時間
日本テレビ	2010PGA CHAMPION SHIP 第78回日本プロゴルフ選手権大会 日清カップヌードル杯	土	15時30分～16時55分
		日	15時00分～16時25分
TBS	関口宏の東京フレンドパークII SP	月	19時00分～20時54分
フジテレビ	アンビリーバボースペシャル LIVE2010 ニュース&すぽると	木	19時00分～22時24分
		土	24時00分～24時15分
テレビ朝日	さんま&EXILEの世界に一つだけの歌 世界の子どもがSOS! THE☆仕事人バンク	金	19時00分～21時48分
		日	19時00分～20時54分
テレビ東京	アスリート感動劇場 1億の心に響く物語II (仮)	水	22時00分～23時24分

※ 上記番組中に30秒のCMを1回又は2回放映したこと。

(2) スポット放映

地区	放送局	
関東	日本テレビ	TBS
関西	読賣テレビ	朝日放送
名古屋	中京テレビ	東海テレビ

※ 各放送局の空き時間帯に放映を依頼したこと。

参考：欧州等滞在歴（英国滞在歴）の献血制限緩和措置告知CM

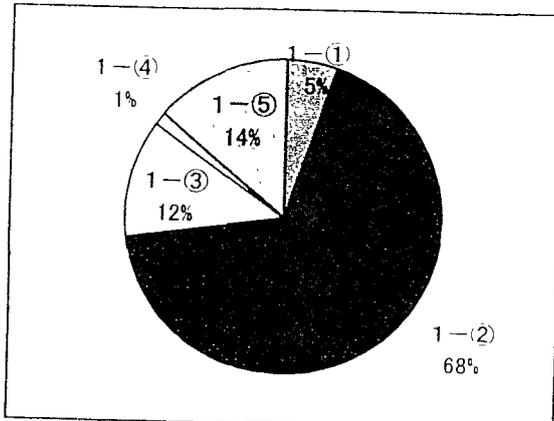
TVCF「石川遼・献血推進+英国滞在歴規制緩和告知」篇（30秒）

	<p>ありがとう</p>		<p>全く知らなかったですね</p>
	<p>ありがとう</p>		<p>献血に関する、いろいろな資料とか</p>
			<p>今、気付きましたし</p>
			<p>それ、大丈夫ですね</p>
	<p>ありがとう</p>		<p>やはり、大感謝し</p>
			<p>協力しているという</p>
			<p>気分よくなりました</p>
	<p>ラブ・イン・アクション</p>		<p>ラブ・イン・アクション</p>
			<p>英国滞在に関する献血制限が緩和されました。</p>

資料4-2

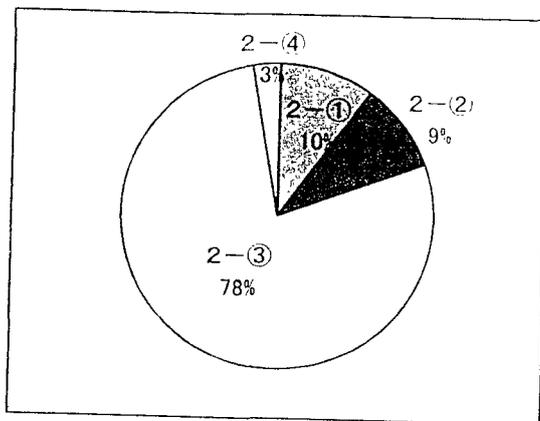
平成20年度「けんけつ ホップ ステップ ジャンプ」配布時におけるアンケート調査結果

アンケート回収 520校/5948校
 (※平成20年度は、平成21年3月に配布を行ったもの)



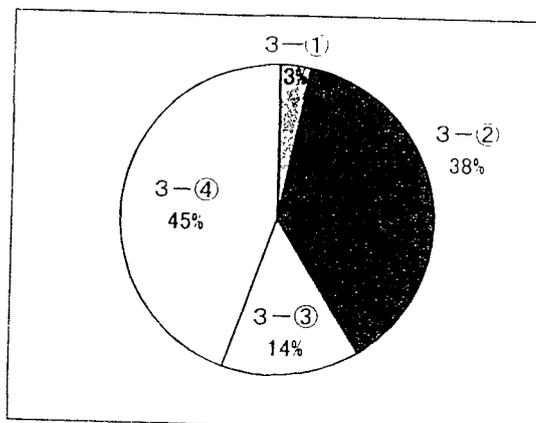
1. 貴校では、この資料をどのように利用されていますか。

- ①保健体育の授業で使用している
- ②配布するのみ
- ③校内での献血実施時に配布している
- ④その他の授業で使用している
生物・理科/家庭科
- ⑤その他
HRで配布・担任より指導/興味関心のある生徒に配布/
卒業時に配布/地域で献血がある際に配布/
新入生に配布/学年集会で配布・説明/
保健委員会で使用/保健だよりの資料として使用/



2. 貴校では、本資料を何年生に配布しましたか。

- ①1年生
- ②2年生
- ③3年生
- ④その他
4年生(定時制)/献血者(学年問わず)/
希望者/保健委員



3. 本資料によって、貴校生徒の献血への関心に変化はありましたか。
 (先生の印象で結構です。)

- ①高まった
- ②やや高まった
- ③変わらない
- ④分からない

4. 本資料の内容について生徒の献血への関心を高めるためのアイデアや改善すべき点があれば、ご記入下さい。

(自由記載項目)

- ・保健の授業を実施する1、2年生への配布とし、授業の中で活用するのが望ましい。
- ・3年生は保健の授業がないので、詳しく説明していない。
- ・3年生は受験体制で、保健0・家庭科0という時間割。配布時期に苦慮する。
- ・生徒の保健の授業には献血関係がないので難しい。
- ・実業高校で、あまり関心がない。今後意識を高めたい。
- ・学校で献血や献血の授業があれば、そのときに配布することによって、関心は高まると思う。
- ・見学などの体験学習とあわせて取り組めたらベストだと思う。
- ・卒業時に配布したらどうか。(進路も落ち着き、18歳の自覚があるように思う。)
- ・校内献血(2、3年生対象)では、2年生の方が献血に興味を持っている(初めての献血)ので、2年生に配布したい。
- ・1、2年生を対象に3月に献血を実施しているため、配布対象を2年生としている。
- ・とてもわかりやすく、興味を持って知識を高められる教材だと感じた。
- ・とてもわかりやすく良いと思う。
- ・とても読みやすく、わかりやすい冊子だと思う。
- ・とても貴重な資料だと思う。
- ・マンガが取り入れられ、わかりやすかった。
- ・親しみやすいキャラクターやレイアウトなので、生徒も読みやすい。
- ・DVDとの併用により、関心を高めるために役立ちました。
- ・今の内容で十分だと思う。
- ・予想以上に生徒が熱心に読んでいたので良かったと思う。
- ・以前より親しみやすい内容になった。
- ・イラストが可愛くて、生徒もとても関心をもってくれた。
- ・ポスターを各校に2～3枚で良いのではないかな？
- ・とてもわかりやすい冊子だが、もう少しコンパクトにまとめても良いと思う。
- ・もう少し内容を簡潔に、冊子を薄くしてください。
- ・もう少し簡潔な文章の方が良いと思います。
- ・もう少し簡単でも良いと思う。
- ・字が小さく量が多いので、もう少し簡略化を。
- ・厚すぎる。
- ・薄くてインパクトのある資料にする。
- ・生徒用にはクリアファイルが良いのではないのでしょうか。(常時持つて見ることが出来る。)
- ・絵や図が多くわかりやすいが、冊子だとよく読むまでは至らない。ボールペンやクリアファイルの方が良いと思う。
- ・クリアファイルにPRしたい内容を凝縮して載せて配布する。冊子はゴミになりやすい。
- ・冊子だとなかなか読まないで、内容を厳選してリーフレット(両面印刷1枚)にまとめるとよい。
- ・両面印刷1枚の方が、読む確率は高いと思う。
- ・表ウラ一度で見られるリーフレットや下敷きのようなものでも良いと思う。(厚い冊子だと読まないような…)

- ・サイズがA5の方が読みやすい。
- ・もう少し冊子を小さくしたら、生徒も気軽に手にとって読む気持ちになりやすいのではないかと思う。
- ・大変分かりやすいテキストであるが、ページ数が多いようにも思われる。
- ・もう少し枚数を減らすと生徒が飽きずに読めると思う。
- ・ページ数を減らし読みやすくする。
- ・少しページが多い。A4両面くらいのパンフレットがよいと思う。
- ・資料が厚いので、もう少しポイントを絞った簡単なプリントで良いと思う。(詳しいパンフはクラスに1冊で十分。)
- ・内容が盛りだくさんで読み切れません。冊子も内容もコンパクトにして欲しいと思います。
- ・クラスに1つカレンダーにするとか、メモ用紙の裏が献血のPRとか、考えてほしい。
- ・もっと文字を大きくした方がよい。
- ・少し子どもっぽさが気になります。
- ・高校3年生のテキストにしては、イラストが子どもっぽく、興味や関心が持てないように感じます。
- ・高校生なので、職員用と同様のものでよいと思う。
- ・献血対象者全員に配布できたらよりよいと思う。
- ・資料を配付しても、読んでくれたかどうかは各個人によるところが大きいので、効果があるか分からない。
- ・内容的には全体的にまとまっていて良いと思うが、配布するだけではどの程度の生徒が読んでくれるか、学校で学習の場を設けられるとよいのですが。
- ・パンフレットを配っても意識向上にはならないと思う。
- ・生徒は文字が嫌いなので、冊子は無駄ではないか。
- ・この教材にお金を使うよりも、献血者への感謝の品を考えた方が良いと思う。
- ・生徒の実態から内容を理解させることは困難。(特別支援学校)
- ・教員用は小さめで専門的な資料が良いと思う。
- ・Q&Aをもっと載せる。
- ・キャラクター(けんけつちゃん)をもっと宣伝すると良いのでは？
- ・けんけつちゃんは女子に好評。「痛い」等のマイナスイメージを払拭できれば良いかもしれない。
- ・マンガ、イラストを多く取り入れる。
- ・胸打つ名セリフを。
- ・高校生に人気の芸能人等を起用する。
- ・人気のある芸能人をイメージキャラクターとして採用すると関心が高まると思う。
- ・ビデオ、DVD等の視覚的な教材があると良い。
- ・CD等を作成する。(保健の授業でも活用できると思う。)
- ・QRコードをつけて、HPIに携帯からアクセスできるようにする。
- ・現状を知らせる。献血が出来る場所を提示する。
- ・献血不足に対してもっとアピールした方がよい。(この資料は保健だよりも使用させてもらっている。)
- ・課題解決学習の資料としても使用したいので、もう少しデータや内容面で深さもあると良い。
- ・献血器具の写真、10代の人が献血しているアップ写真を載せる。
- ・若者に人気のある芸能人が献血の呼びかけ又は実際に献血しているシーンを載せるのも一つの方法だと思う。
- ・生徒の知っている著名人で、献血に助けられた人のコメント・コラムが入っていると良いのではないか。

- ・生徒が行ってみたいと思えるよう、献血ルームの様子やサービスをもっと加えてみると良い。
- ・生徒会活動や部活動としての取り組みの紹介など、生徒の自主的な取り組みを紹介すると良いと思う。
- ・献血血液によって救われている方たちの言葉など、献血が役立つと実感できる内容にする。
- ・本当に困っている人や献血によって助けられた人の例や手記を載せる。
- ・小児がんの記事を掲載するのはどうでしょうか。
- ・ニュース等で報道されている医療事故等についての正確な情報(リスク等について)も知らせてほしい。
- ・保健授業の「感染症」「エイズ」の単元で扱っているため、そのあたりの資料も少し載せてほしい。
- ・献血できない条件をリストアップしてもらいたい。(ピアスなど)
- ・血液の重要性について教育が大切。
- ・直接生徒へ説明していただきたい。
- ・各校にて説明会をおこなう。
- ・日本の現状として講話等していただけるとなお良いと思う。
- ・献血推進指導・教育のために、保健所等の担当の方が学校に来てくださるのが良いと思う。
- ・学校の場合は、大人(=教職員)が献血への関心を持たなければならない。
- ・世論の関心を高める。
- ・テレビなどでの広報の効果が大きいのではないか。
- ・CMで実情や美談等を出来るだけ多く紹介してもらえば良いのではないか。
- ・ドラマ化するなど、メディアを通じた啓発活動をおこなう。
- ・有名人(人気のあるタレント)による啓蒙。
- ・生徒に身近なモデル(楽天・田中投手)の起用はよかった。
- ・授業時間内で校内献血を実施している。
- ・文化祭などで献血キャンペーンを企画する。
- ・文化祭などに採血車がきて献血をおこなうというようなはたらきかけ。
- ・献血車をもっと街頭に出して、献血の機会が増えればと思う。
学校でおこなうのは、体育や部活動の関係から、健康安全上推奨出来ない場合がある。
- ・地域で献血する機会を増やすと良いと思う。(生徒はどこで献血をしているか知らないのです)
- ・献血して初めて痛みがわかるのではないかと?
- ・年二回、オープン採血の方法で実施しているが、「見せる」ことによって、次は自分も…という気になる。
- ・献血者への記念品の配布
- ・200ml献血が再開されない限り、高校での協力は得られないと思う。(400ml推進に移行後は校内献血を実施せず。)
- ・学校献血時よりも献血ルームに行った方がサービスがよいというのは困る。

平成 22 年度子ども霞が関見学デー
『模擬献血体験』
実施結果報告書

【実施日時】

平成22年8月18日（水）、19日（木）

（受付時間）10：00～12：00、13：30～17：00

【実施会場】

中央合同庁舎5号館低層棟2階講堂

【企画】

子ども霞が関見学デー

厚生労働省プログラム『お薬の世界』（医薬食品局総務課・血液対策課合同出展）

「楽しく学ぼうキッズ献血」

模擬献血体験を通して、献血年齢に満たない子どもたちに、献血の仕組みやその重要性についての理解を深めてもらうことを目的とした企画。

【協力】

日本赤十字社血液事業本部

日本赤十字社東京都赤十字血液センター

【模擬献血体験者数（子どものみ）】

18日（水）126人 ／※参考）厚生労働省来場者数355人

19日（木）175人 ／ 厚生労働省来場者数282人

2日間合計 301人

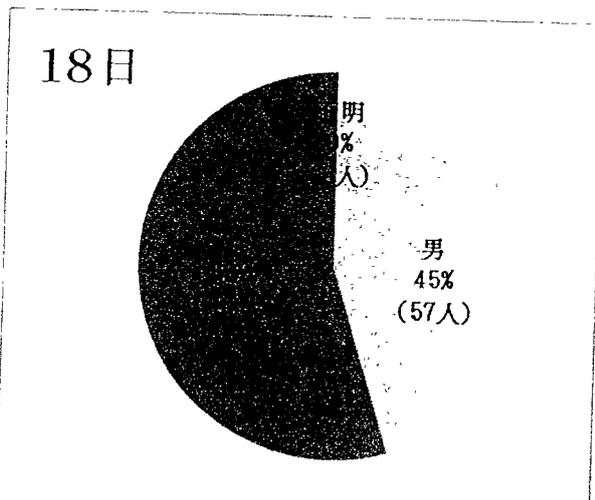
● 1日目の実施結果

実施日時：8月18日（水）10：00～12：00、13：30～16：00

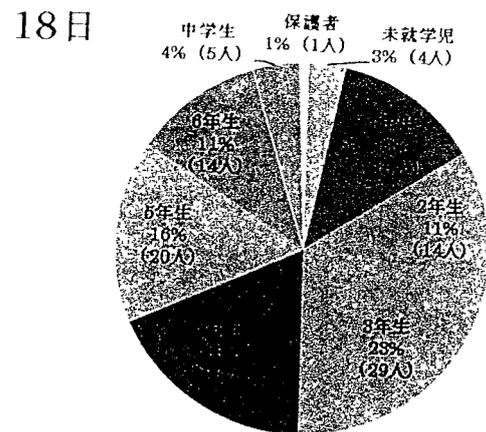
* 模擬献血体験受付人数：126人

【体験者アンケート結果】

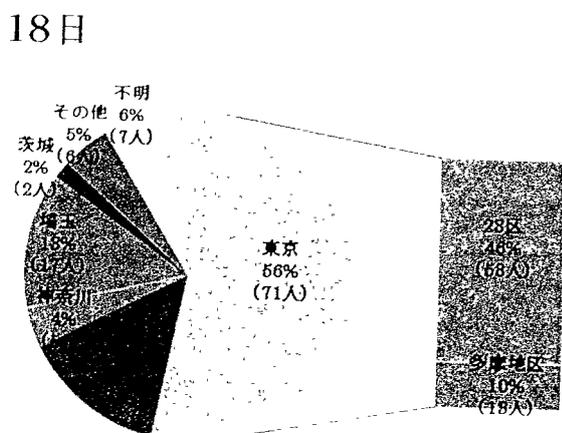
①性別



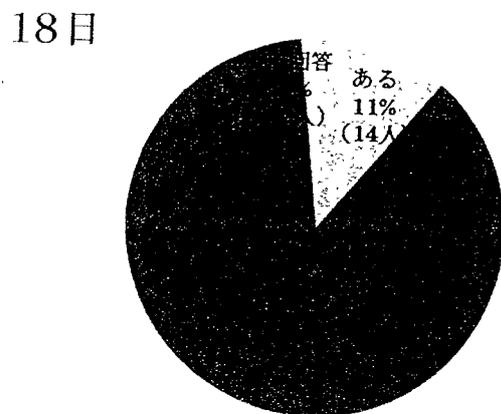
②年齢



③居住地



④保護者等が献血をしている姿を見た経験



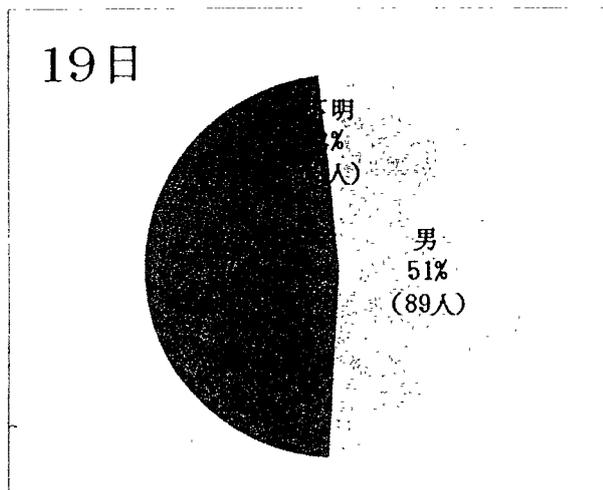
● 2日目の実施結果

実施日時：8月19日（木）10：00～12：00、13：30～16：00

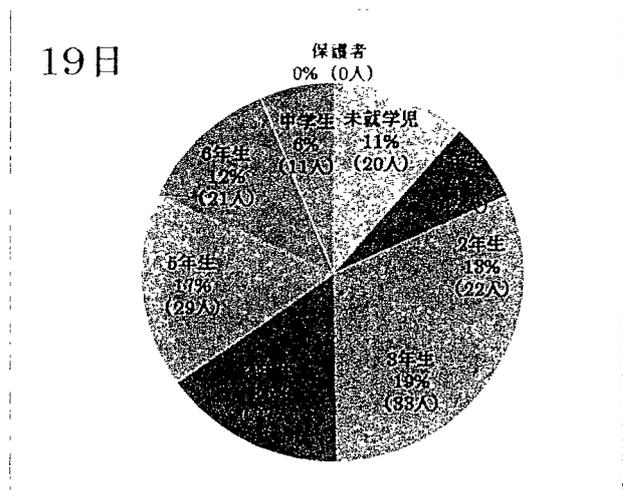
* 模擬献血体験受付人数：175人

【体験者アンケート結果】

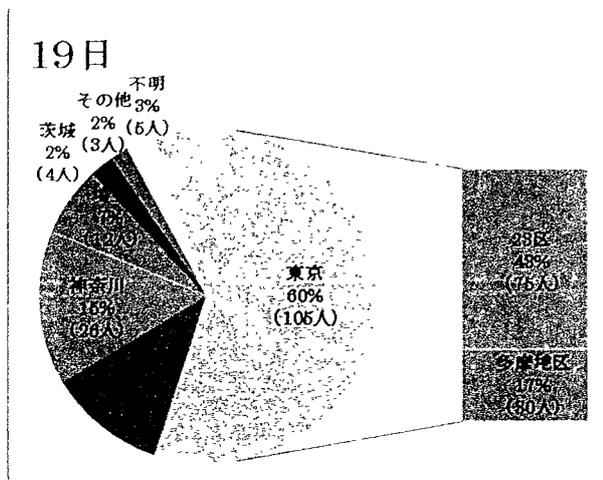
①性別



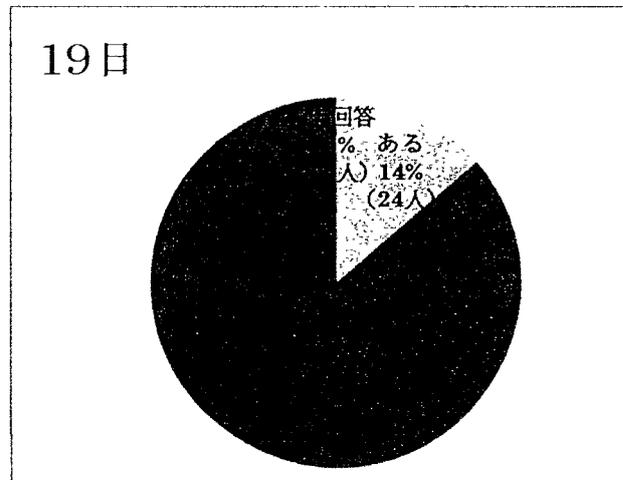
②年齢



③居住地



④保護者等が献血をしている姿を見た経験

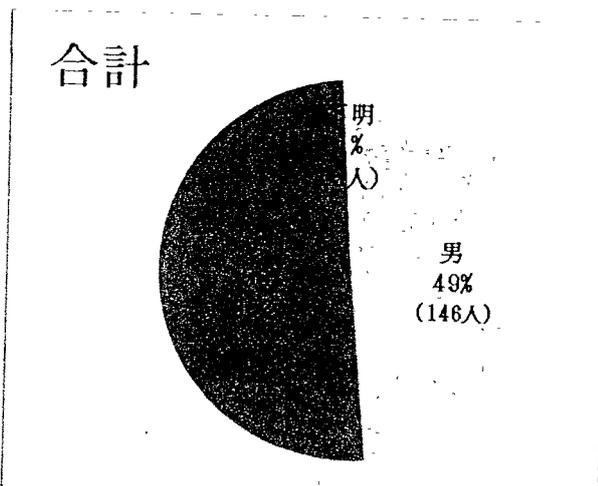


● 2日間合計の実施結果

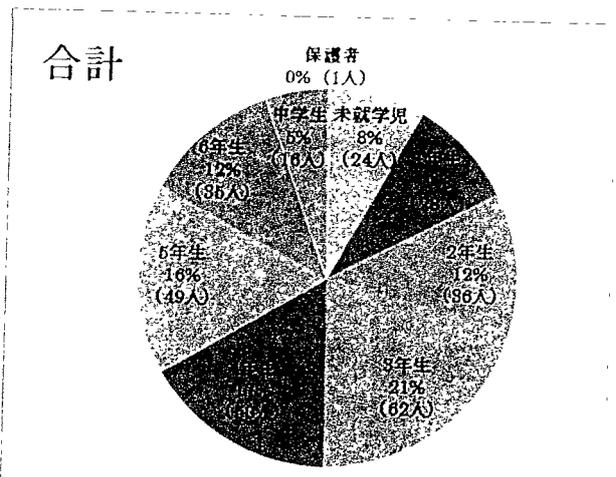
* 模擬献血体験受付人数：301人

【体験者アンケート結果】

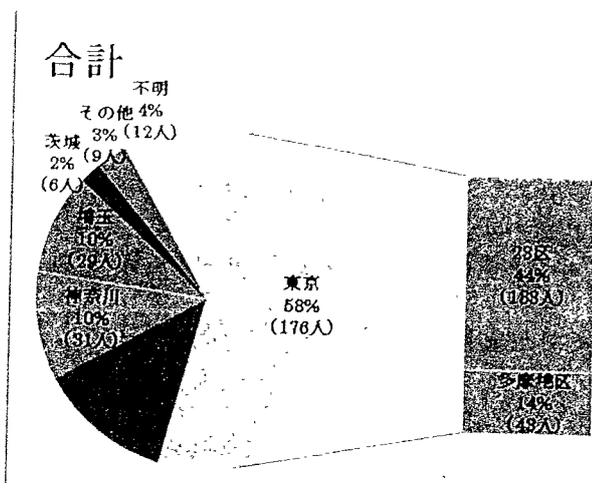
①性別



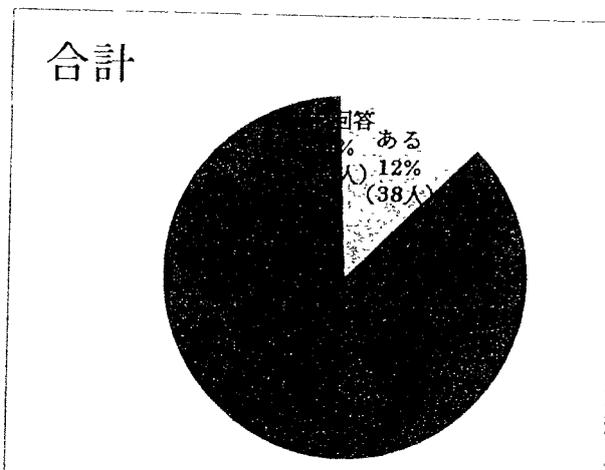
②年齢



③居住地



④保護者等が献血をしている姿を見た経験



※③における「その他」の内訳 … 宮城2人、愛知3人、大阪2人、福岡1人、熊本1人

●子どもたちの感想

- ・ 楽しかった。(5歳／女の子、小1／女の子、小3／男の子、他多数)
- ・ またやりたいです。(小2／女の子、小4／男の子、小5／男の子、他多数)
- ・ ほんとにやってみたかった。(小3／女の子、小4／女の子、小5／男の子、他多数)
- ・ 実際にはやったことがないことを体験できてよかった。(小3／男の子、小5／女の子、小6／女の子、他多数)
- ・ 本当に献血をしたような感じで、おもしろかった。またこういうイベントをひらいてほしい(小4／男の子)
- ・ 本当のけん血じゃないけれど、ふんいきがでていてよかった。(小4／女の子)
- ・ 本当にはりはさしていないけれど、けんけつした感じになりました。(小4／女の子)
- ・ とても現実味があっていい体験だった。(中1／男の子)
- ・ 初めてやってみて、楽しかったです。とてもリアルでした。(小5／女の子)
- ・ こわくなかった。(小1／男の子、小3／女の子)
- ・ ちゅうしゃをするふりなので、あんしんしておもしろかった。(小3／男の子)
- ・ さいしょはこわがっていたけど、こわくありませんでした。(小3／男の子)
- ・ はりはあんまりいたそうじゃなかった。(小5／男の子)
- ・ はりがいたそうだったけどおもしろかった。(小3／男の子、小4／女の子、他多数)
- ・ すこしこわかった。(6歳／男の子、小3／男の子、小4／女の子、他多数)
- ・ ちょっどこわかったけどおもしろかった。(小3／男の子、小5／女の子、他多数)
- ・ ちょっどこわかったけど、思ったよりびっくりしませんでした。いい体験ができたと思いました。(小5／女の子)
- ・ ほんとうにはりをさしたらいたそう。(小3／男の子、小3／女の子、他多数)
- ・ 本当の針だったらこわいと思う。(小3／男の子、小4／男の子、中2／女の子、他多数)
- ・ ドキドキした。(小3／女の子、小4／女の子、小5／男の子、他多数)
- ・ きんちょうした。(小2／女の子、小3／男の子、他多数)

- ・ 少しきんちょうしたけれどおもしろかった。(小4/女の子、小5/男の子、他多数)
- ・ ほんとうのけんけつをやってみたくになりました。(小1/女の子、小2/男の子、小4/男の子、他多数)
- ・ 大きくなったらけんけつに協力したいです。(小3/女の子、小4/男の子、小5/女の子、他多数)
- ・ 16歳になったら献血しようと思った。(小2/女の子、小4/女の子、小6/男の子、中1/女の子、他多数)
- ・ 16才になったらけん血できるので、参加する機会があれば参加したい。(小6/男の子)
- ・ 来年から献血できるので、しようかなと思います。(中3/女の子)
- ・ 本当にやったようだった。16才以上になったらいってみたいと思った。(小4/女の子)
- ・ けんけつのたいけんができてよかったです。16さいになったらけんけつします。(小5/女の子)
- ・ お父さんがよくやっているの、体験することができてよかったです。16歳になったら、やってみたいです。(小6/女の子)
- ・ お父さんが献血をやっていたので、献血ができる歳になったら献血しようと思っていましたが、今日、体験としてできたので良かったです。(中1/男の子)
- ・ 今日体験でやって、けんけつは人を助けるとても大切なことだと分かりました。16才になったらけんけつをして人を助けたいと思いました。(小5/女の子)
- ・ 今日は本当に血をとらなかったが、けんけつではどういことをするのがよく分かりました。16さいになってからしかできないが、ぜひ他の人のために16さいになったらけんけつをしたいと思います。(小5/女の子)
- ・ 病気の人を治るなら献血したいと思いました。(小6/男の子)
- ・ 献血で人を助けられるから、私もしたいなと思った。(小6/女の子)
- ・ 大人になったら、けんけつをしてけがや病気の人を助けてあげたらいいなと思いました。(小5/女の子)
- ・ けんこうな血をあげて、血をもらった人がたすかるならすごいいいことだと思った。できるときになったらけんけつをして人を助けたいです。(小4/男の子)
- ・ けん血は病気になってる人を助けるので16才以上になったらやりたい。(小4/男の子)
- ・ 献血は多くの検査をしなければならぬことがよく分かりました。でも、それで多くの命が救えるのならば、ぜひ行きたいです。(小6/男の子)

- ・ たくさんの検査をしてめんどうだけど、人の命を助けられるのはいいなと思った。針は苦手だけど、16歳になったらやってみたい。(中1/女の子)
- ・ どきどきしました。でもこまった人をすくえる。(小2/女の子)
- ・ 本当にやったらいたそうで、ちょっとこわいです。でも、人のためになるんだなって思ったら、大人になったらやってみようと思います。(小5/女の子)
- ・ 献血の手順が分かりました。針をさすところが多いけれど、病気の人にためにやってみようかなと思いました。(小5/女の子)
- ・ けんけつをするときははりがそうぞういじょうにいたそうだった。だけどそれで人が助かるならしたいとおもいます。(小6/男の子)
- ・ 針をさすのはびっくりするけど、本当に血を分けてあげるときは、そんなこと思わないだろうと思う。(小4/女の子)
- ・ 大変そうで…。けど、やらないと人が助けられないことが分かった。(中2/女の子)
- ・ 自分の血で相手の人が助かると思うと、ぜひ献血をやってみたいと思いました。(小6/女の子)
- ・ 本当に献血するとなるとドキドキすると思います。でも血がなくてこまっている人もいるからやろうと思います。(小6/男の子)
- ・ 今回は実際に針はさしてないからこわくなかったが、実際にやったらこわいと思う。でも、こまっている人がいるんだから、助けないといけないとも思った。(小6/女の子)
- ・ 実際には採血はしていないけれど、とても緊張しました。他の人の役に立てるようにしたいです。(小4/女の子)
- ・ 献血ってこんなふうにするんだなーと思いました。あんまりいたくなさそうだし、それで人がたずかるんだったら、大人になったらやりたいです。(小4/男の子)
- ・ わたしも、たおれたら血をもらうことがあるかもしれないから、やりたい。(小5/女の子)
- ・ としをとったら私もひつようかとおもうと私もきょう力したいなと思いました。(小3/女の子)
- ・ たいけんをして、わたしももらうがわになるかもしれないと気づきました。たいけんできてよかったです。(小4/女の子)
- ・ けんけつの体験をして勉強になった。(小4/男の子、小6/男の子、他多数)
- ・ 献血のやり方がよく分かっておもしろかった。(小2/女の子、小6/男の子、他多数)

- ・ けんけつについてたくさん知れてよかったです。(小2/男の子、小3/男の子、小6/女の子、他多数)
- ・ 本当にやるには、16才になってからということがわかりました。(小4/男の子)
- ・ けんけつはこんなことをするのかとおもいました。(小2/女の子)
- ・ 体験して、さい血はこんなこんかんじなのかということが分かった。(小6/男の子)
- ・ さいけつがおもしろかった。(小3/女の子)
- ・ 針が思ったよりふとくてびっくりした。(小2/男の子、小4/女の子、小4/男の子、他多数)
- ・ はりが大きかった。(小1/男の子、小4/男の子、小4/女の子、他多数)
- ・ 針が太くて痛そうだと思う。(小5/男の子)
- ・ はりはおもったより太かった。けつあつをはかるのは、ぎゅっとなった。こんどは本当にやってみたい。(小5/男の子)
- ・ けんけつは、さいけつよりたいへんだとおもった。(小5/女の子)
- ・ いがいと時間がかかるものだと思った。(小5/男の子、小5/女の子、小6/女の子)
- ・ いろいろなことをして大変だった。(小3/女の子、小5/女の子、小6/女の子)
- ・ 初めて献血体験をしました。いろいろな検査をして献血するのは大変だと思いました。(中3/女の子)
- ・ 初めて献血のようなことをして、血を抜くだけなのにとても手間がかかるんだと思いました。将来献血をしてみようかと思いました。(中2/女の子)
- ・ いがいといろいろやるのがわかった。(小5/男の子)
- ・ 血をとるまでにたくさんすることがあってびっくりしました。(小5/男の子)
- ・ 献血をするための行程が多かったのでおどろきでした。(小6/女の子)
- ・ 血あつをはかったり、濃さをはかったりと、血をとる前に色々やることがあるのは初めて知りました。ありがとうございました。(小5/女の子)
- ・ 献血するにはいろいろな検査があるんだなと思った。(小6/女の子)
- ・ こうやって献血できるかどうかをたしかめるのだと知って勉強になりました。(中1/女の子)

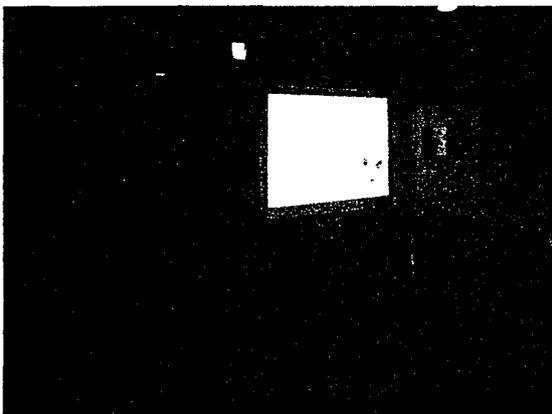
- ・ けん血する前の準備がたくさんあってびっくりしました。しくみもよくわかったので、とても良かったです。(小5/女の子)
- ・ 二度刺すのを見ておどろいた。(中2/男の子)
- ・ 血をとるのに10分かかるといことはしなかった。(小4/女の子)
- ・ 400mlも血をとったりするのは1年間に何回くらいできるのかなあと思いました。わたしも大人になったら本当の献血をしたいです。(小4/女の子)
- ・ 献血をやってみて、もっとたいへんだと思っていましたが、かんたんだったのでおどろきました。(小5/女の子)
- ・ 本当にけんけつのたいけんをしているみたいで、すごくびっくりしました。けっこう短いことがわかっておもしろかったです。(小5/女の子)
- ・ さいごにすいぶんやとうぶんをとることをはじめて知りました。(小6/女の子)
- ・ こういうふうにつえきをとって、びょうきの人にあげているんだな—と思いました。(小4/女の子)
- ・ こうやって血をとってびょうきのひとなどに血がおくられるんだな—と思った。(小4/男の子)
- ・ けんけつはとても大切なことだということがわかりました。(小4/女の子、小5/男の子、小6/男の子、他多数)
- ・ けんけつをしてきょうりょくすることは大切だと思いました。(小2/女の子)
- ・ 献血は人のためになれるからすてきなことだ—と思った。(中1/女の子)
- ・ けんけつルームは見たことがあるけれど、やっぱりそれがないといけないとわかった。(小5/女の子)
- ・ 駅の近くに、けんけつルームがあって、けんけつをしている人たちがたくさんいて、どうやってやるのか知らなかったけど、今回、体験して、やり方がわかったから良かった。(小6/女の子)
- ・ 献血の体験をしたのははじめてだったので、どうやってやるのかを知れてよかったです。(小4/男の子)
- ・ 初めてこういう体験をしたけれど、とても勉強になりました。もうちょっと大きくなったら、献血をやってみようかな。(小6/女の子)
- ・ どうやって採血するのかよくわかったので、大人になったら本当にけん血をしよう—と思いました。(小5/女の子)

- ・ 本とうにするのではなかったけれど、けんけつをしている人のきもちがよくわかりました。(小2/男の子)
- ・ 看護師さんともおはなしができて、楽しくけん血ができました！(小4/女の子)
- ・ 本当にはささないけど、ちゃんと説明してくれてうれしかったです。(小5/女の子)
- ・ 様々なチェックを受けてから献血すると知らなかったのでびっくりしました。皆さんがとても優しくしてくれました！(中3/女の子)
- ・ 最初はぜんぜんわからないことだったけど、わかりやすくおしえてくれたのでよくわかりました。とても楽しかったです。(小6/男の子)
- ・ ほんとうはできないことをやらせてくれてありがとうございました。(小4/女の子)

●保護者の方の感想

- ・ 体験を通して、久々に献血してみようと思いました。
- ・ 献血について体験できないことがないので、とても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。

●会場風景



☆展示、クイズコーナー



☆パンフレット（ご自由にお持ちください）



☆オープン献血会場のイメージ



☆受付・問診～血圧測定～血色素量測定



☆血圧測定



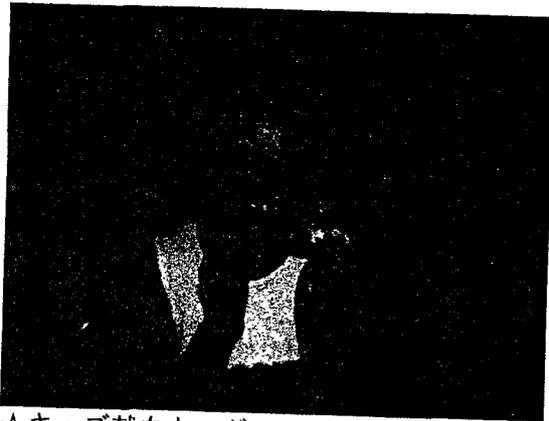
☆血色素量測定



☆献血の模擬体験



☆体験中は献血についてのお話を聞きます



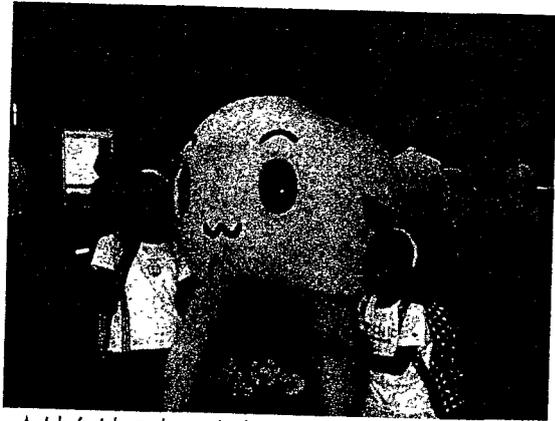
☆キッズ献血カード



☆血液製剤（ダミー）の展示でお勉強

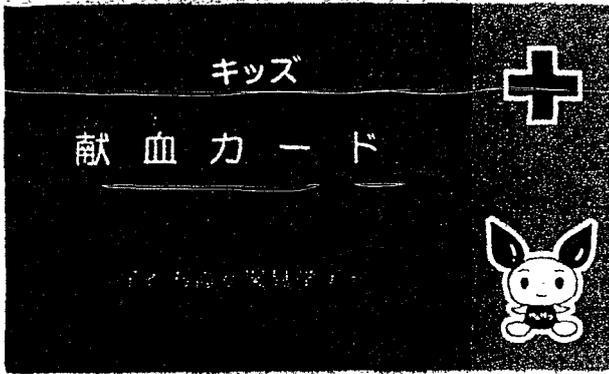


☆穿刺の体験



☆けんけつちゃんと一緒に記念撮影

「キッズ献血カード」(表)



(裏)

No. _____
 なまえ _____ さん

日付 _____

本日、献血の勉強をしたことを証明します。

16歳になったら、献血をお願いします。

厚生労働省「子ども霧ヶ岡見学デープロジェクト」
 日本赤十字社「キッズ献血プロジェクト」

「キッズ献血申込書・問診票」(表)

ひづけ 日付 _____

けんけつもうしこみしょ キッズ献血申込書

なまえ 前 _____

がくねん 学年 _____

しょうがく 小学 _____ ねん 年

ちゅうがく 中学 _____

たんじょうび 誕生日

へいせい 平成 _____ ねん 年 _____ がつ 月 _____ にち 日

うけつけ 受付 _____

もんしん 問診 _____

ひじゆう 比重 _____

さいけつ 採血 _____

す 住んでいるところ _____

くし 区市 _____ まち 町 _____ りん 村 _____

かんそう 感想 (体験した後に記入)

たいけん あと きにゆう (体験した後に記入)

(裏)

もんしんひょう 問診票

1. きょう 今日、げんき 元気ですか はい・いいえ

2. きのう 昨日は、よくね 寝ましたか はい・いいえ

3. きょう 今日、ごはん 飯を食べましたか はい・いいえ

4. おとうさんやおむさんや知っているひとがけんけつを見たことがありますか はい・いいえ

※ この申込書に書いてもらったみんなの個人情報、厚生労働省の献血体験のお仕事以外のことには使いません。



受血者が見える広報の取り組み

輸血を受けた患者さんの感謝の気持ちや、献血された血液がどのように患者さんに使われているかを表現し、より多くの献血者等に献血された血液の使われ方を理解していただくことを目的とし、下記のとおり広報資材を作製し、各血液センターにおける啓発事業において広報活動を展開している。

1 映像

(1) 「人は人の力になれる」

内 容 急性リンパ性白血病と診断された女の子（5歳）がお母さんと共に闘病生活を乗り越え、命を支える献血の大切さを伝えるドキュメント。

放映時間 12分

製作年度 平成20年度

製作本数 1,000本

(2) 「ゆきみ」

内 容 3歳の愛する娘に小児がん再発し、父が娘の闘病を通じて感じたことを、自らの経験を基に血液の尊さや人との温かい繋がりを伝えるドラマ。

放映時間 27分

製作年度 平成21年度

製作本数 7,500枚

※ ライオンズクラブ各複合地区ガバナー協議会事務（8箇所）及び各地区キャビネット事務局（35箇所）あて送付。

(3) 「八月の三重奏」

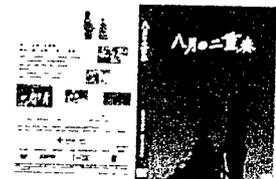
内 容 妹を急性白血病で亡くされた姉。自身も骨髄提供を行うなど家族の5年間にわたる闘病の記録。妹を亡くした後、献血ボランティア組織を立ち上げ、献血のボランティアに励む姉の物語の映画。

放映時間 45分

製作年度 平成22年度

製作本数 10,000枚

※ 劇場における完成試写会の開催及び全国レンタルビデオ店での無料貸出しを予定。



2 個人向け小冊子（献血 Walker）への記事掲載

平成20年度より年2回発行（毎年250万部）している、献血 Walker に「ライフレシビエント」記事として、これまで輸血を受けた患者さん9名の声を掲載していること。

絵本による広報

(絵本「ぼくの血みんなの血ーあたたかい贈りもの」配布状況)

先般、社会福祉法人はばたき福祉事業団様より同事業団が監修・製作した、血液と献血について学ぶことができる絵本を2,200冊の寄贈を受けたところです。

日本赤十字社においては、各血液センターに配布し、献血ルームへ設置、小学校及び医療機関の小児科等へ配布し、献血の必要性等に触れていただくこととしています。

なお、各配布先については下表のとおりとなっております。

配布先	件数	配布数
小学校	171	357
その他教育機関 (※1)	38	65
公共機関 (※2)	267	691
血液センター	63	344
献血ルーム	84	524
日赤関連施設	32	109
その他	6	30
合 計	661	2,120

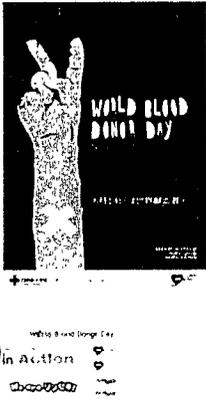
※1 幼稚園及び保育園等

※2 医療機関、図書館及び行政機関等



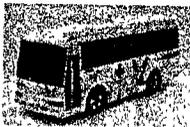
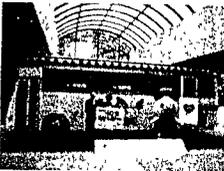
積極的な広報戦略の実施内容

(日本赤十字社の取り組み)

	キャンペーン等名称	目的	実施時期	実施（予定）内容	主催・後援・共催
1	<p>世界献血者デー</p> 	<p>毎年6月14日に、WHO（世界保健機関）、IFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）、ISBT（国際輸血学会）、FIBDO（世界献血団体連盟）によって共同で企画され、これらの各団体がひとつの国際的なイベントを通じて集まり、安全な血液や定期的な無償献血の重要性への認識を高める世界的なメディア・キャンペーンを提供。</p>	<p>平成22年6月14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンペーンポスターの製作及び配布。 ・ オリジナルステッカーの製作及び配布。 ・ ラジオ番組での周知。 ・ 各血液センターでのイベント開催。 	<p>—</p>
2	<p>日本赤十字社第5回「いのちと献血俳句コンテスト」</p> 	<p>若年層を中心に幅広い年齢層へ俳句の募集を行い、「献血」を通じて支えられる「生命」に意識を向けさせるとともに、献血活動の意義の理解・普及の機会を創出することを目的として実施し、併せて献血者減少期における献血者確保を図ることを目的とする。</p>	<p>平成22年6月15日から平成22年9月30日まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血、いのちの尊さ、愛、友情、助け合い、感動などについて思うこと、感じたことを俳句で表現し、応募する。 ・ 国内在住の方ならどなたでも応募可。 ・ 応募方法は応募専用ハガキ、官製ハガキ、学校専用応募用紙、FAX 又は WEB。 ・ 主な賞は厚生労働大臣賞、文部科学大臣賞、審査員特別賞、日本赤十字社社長賞等。 ・ 教育現場へのアプローチとして学校用応募キットを小・中・高等学校へ直接送付するほか、教職員グループ「TOSS (Teacher's Organization of Skill Sharing)」との連携により、授業で献血について取り上げてもらう協力を依頼。 ・ 各血液センターで実施する親子献血教室や街頭献血会場と連動してイベントを展開。 	<p>(主催) 日本赤十字社 (後援) 厚生労働省、文部科学省及び各都道府県教育委員会 (協力) 株式会社ポケモン、東京モノレール株式会社、株式会社</p>

キャンペーン等名称	目的	実施時期	実施(予定)内容	主催・後援・共催
<p>3</p> <p>愛の血液助け合い運動</p> 	<p>すべての血液製剤を国民の献血によって安定的に確保する体制を早期に確立するため、広く国民の間に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に、継続的な推進が必要な成分献血・400mL献血への協力と血液製剤の適正使用への協力を求め、献血運動の一層の推進を図ることを目的とする。</p>	<p>平成22年7月1日から平成22年7月31日まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンペーンポスターの製作及び配布。 ・ 各血液センターでのイベント開催。 	<p>(主催)</p> <p>日本赤十字社、厚生労働省、都道府県(後援)</p> <p>文部科学省、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本病院会、全日本病院協会、全国自治体病院協議会、日本病院薬剤師会、日本新聞協会、日本雑誌協会、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本民営鉄道協会、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本看護協会、日本血液製剤協会、日本労働組合総連合会、日本経済団体連合会、日本製薬団体連合会、全日本薬種商協会、全国配置家庭薬協会、血液製剤調査機構</p> <p>(協賛)</p> <p>健康保険組合連合会、国民健康保険中央会、全国社会福祉協議会</p>
<p>4</p> <p>LOVE in Action PROJECT</p>  	<p>少子高齢化と400mL献血の普及啓発に伴い、若年層献血が減少する中、若年層に献血の意義を伝え、献血行動を促すことを目的とする。</p>	<p>〈第1期〉 平成21年10月1日から平成22年6月30日まで</p> <p>〈第2期〉 平成22年7月1日から平成23年6月30日まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の献血会場で全来場者にステッカーを配布。 ・ インテリースケープ(バス停メディア)等でポスター掲出。 ・ 各血液センターの講演会やイベント等で放映できる映像コンテンツの制作。 ・ JFN全国37局ネットで毎週月か、金曜日の朝6時30分から10分間番組「LOVE in Action」を放送。期間中に1時間程度の特別番組を2回放送予定。 ・ JFN各局による単独イベントの実施や複数局に山本シェウ氏が出演し、各局DJとのトークショーを放送するラジオキャラバンの実施。 ・ アーティストやスポーツ選手により献血啓発イベントを開催。 ・ LOVE in Action Meeting (LIVE) の開催。等 	<p>(後援依頼予定)</p> <p>厚生労働省</p>

	キャンペーン等名称	目的	実施時期	実施（予定）内容	主催・後援・共催
5	<p>はたちの献血キャンペーン</p> 	<p>冬季における血液不足解消と若年層をはじめとする献血協力の訴求及び献血思想の普及啓発を目的とする。</p>	<p>平成23年1月1日から平成23年2月28日まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記者発表会の実施。 ・ キャンペーンポスターの製作及び配布。 ・ テレビ及びラジオCM放映。 ・ 新聞紙への広告出稿。 ・ LOVE in Action PROJECT との効果的な運動を実施。等 	<p>(主催予定) 日本赤十字社、厚生労働省・都道府県</p> <p>(後援予定) 社団法人日本民間放送連盟、社団法人日本民営鉄道協会、一般社団法人日本コミュニティ放送協会</p>
6	<p>自動車教習所設置の広告映像配信システム (JACLA VISION) による広報展開</p> 	<p>特に減少が著しい若年者層が多く集まる自動車教習所の教習生を対象に献血の必要性について訴求し、成分献血者確保の促進を図ることを目的とする。</p>	<p>平成22年7月16日から平成22年9月15日まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英国渡航歴制限緩和関連CMの放映。 ・ アーティスト等による献血に対するメッセージ放映。 ・ 献血 Walker の配布 	—
7	<p>輸血患者とその家族の再現映像の製作</p> 	<p>輸血を受けた患者サイドの声を取りあげた患者さんの感謝の気持ちや、献血された血液かどのように患者さんに使用されているのかを表現することにより、より多くの献血者に献血の使い方方を理解していただくことを目的とする。</p>	<p>平成22年6月から平成22年8月末頃まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製作した映像（ドラマ）を各血液センターが行う広報展開で放映。 ・ 映画館での試写会の開催及び映画祭への出展。 ・ テレビ（CS放送）での放映。 ・ 全国の主要レンタルビデオ店での無料貸出し。 	—

	キャンペーン等名称	目的	実施時期	実施（予定）内容	主催・後援・共催
8	個人向け小冊子（献血 Walker）の配布 	献血者及び献血未経験者を対象とした輸血患者の感謝の声、献血の案内、説明、広告等を記載した小冊子を制作し活用することで、新規献血者の確保、次回献血の促進を図る。	平成22年10月末及び平成23年3月末	<ul style="list-style-type: none"> 個人向け小冊子（献血 Walker）を献血者向けに 2,500,000 部、一般者向け 500,000 部を製作し配布。 	—
9	献血者減少期における献血者確保のための広報 	10 月から4月における献血者確保が困難な時期に、赤血球製剤の適正在庫数を維持することを目的とする。	平成22年10月1日から平成23年3月31日まで	<ul style="list-style-type: none"> けんけつちゃんハフラッピングトミカ（ミニカー）の製作及び配布。 	—
10	移動採血車のけんけつちゃんラッピング 	献血バスの一層のイメージアップを図ることを目的とする。	平成22年8月1日から平成22年12月31日まで	<ul style="list-style-type: none"> 全国179台（原則として、ラッピング未施工車両全て。）の献血バスの外装をけんけつちゃんラッピング加工の実施。 	—

日本赤十字社における広報評価

「はたちの献血」キャンペーン
効果測定調査 報告書

調査設計

1 調査目的

日本赤十字社では、1981年以来、毎年『はたちの献血キャンペーン』を実施しており、2010年実施で第30回となる。キャンペーンの目的は「新たに成人式を迎える“はたち”の若者を中心として、広く市民の方々から血液が不足しがちな冬期における献血者の確保」である。2010年実施キャンペーンでは、キャラクターとして石川遼氏が起用された。

本調査は、当該キャンペーンの認知度、CMやポスター等の広報資料の認知度、実施したアクションプランに対する反応等を調査し、キャンペーンの目的である「冬季献血者の確保」への影響・効果を定量的に分析・評価することにより、献血者及び献血未経験者に対する献血の動機づけを推進するにあたっての費用対効果を踏まえた効果的な次年度以降の広報計画に活かすと共に、広報業務の向上に資することを目的とする。

2 調査方法

- 調査手法 インターネット調査
- 実施期間 事前調査 2009/12/22～24
事後調査 2010/3/19～3/22
- 調査対象者 16歳～69歳の男女(全国)
- 調査項目数 事前調査 15問、事後調査 27問
- 回収サンプル 2000ss
- 割付(事前調査・事後調査共通)

	全体	16-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳
男性	1000	166	167	167	167	167	167
女性	1000	166	167	167	167	167	167

(※事前調査・事後調査の対象者は、重複しない別サンプルである)

結果概要

《「はたちの献血」キャンペーンの認知》

- 「はたちの献血」キャンペーンの認知率は全国(16才～69才男女)で49.1%であった。
- キャンペーンの認知率は、年代が上がるにつれて高くなる(経年の認知の積み上げがある)。
- キャンペーン実施前と後のキャンペーンの認知率は、概ね実施後のほうが高い(例外:50代)。
- キャンペーン実施前後の献血への関心は、キャンペーン後のほうが高くなっており、一定の成果がうかがえる。

《2010年「はたちの献血」キャンペーンの評価》

- キャンペーンに対する意見は好意的なものが多い。
- 2010年のイメージキャラクター「石川遼」については、今回のキャンペーン認知者の2割が、純粹想起できるレベルで覚えていた(助成想起レベルでは全体38.7%が記憶していた)。
- 「石川遼」については、おおむね好意的な評価(健康的、さわやか、若々しい)であり、イメージキャラクターとしてふさわしいという意見が多数を占めた。特に、年代の高い層における好感度は高いようである。
- キャッチフレーズの認知率は、キャンペーン認知者の25.1%にとどまり、特に10代～20代の認知率は15%前後と低い。
- 広報資材は、おおむね好意的な評価であったが、「テレビCM」(35.5%が接触)以外の媒体については、接触率は2割に満たなかった。
- 来年のキャラクターとしては、来年二十歳を迎え、国民的な人気のある浅田真央の名前が多く挙がった。

「Love in Action PROJECT」キャンペーン
効果測定調査 報告書

調査設計

1 調査目的

日本赤十字社が実施した、献血推進キャンペーン「Love in Actionキャンペーン」の認知度、CMやポスター等の広報資材の認知度、実施したアクションプランに対する反応等を調査し、国民の献血に対する関心度や理解度などについての影響・効果を定量的に分析・評価することにより、献血未経験者に対する献血の動機づけを推進するにあたっての効果を測るとともに、効果的な次年度以降の広報計画に活かすための資料を得ることを目的とする。

2 調査方法

- 調査手法 インターネット調査(実施期間:2010/4/15~17)
- 調査対象者 16歳~69歳の男女(全国)
- 調査項目数 予備調査6問+本調査19問
- 回収サンプル 2000s
- 割付

	全体	16-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳
男性	1000	166	167	167	167	167	167
女性	1000	166	167	167	167	167	167

結果概要

- 献血に対して関心がある人(献血関心層)は、全体では50.6%と約半数。
献血関心層の割合は、世代別で下がる。
献血意向も50代以上になると下がる。60代では、献血年齢制限などにより、献血したくてもできないと思っている人も多い。
献血をしたことがない人は、「具合が悪くなるのではないか」「痛そう」といった不安を持つ人が多い。
- 献血経験率は全体では51.1%。年代が高いほど経験率は高いが、直近1年間の実施率は下がる。
10代の経験率は12.3%、20代は38.3%。30代以上が5割以上の経験率であることと比べると、20代までの経験率が低い。
10代献血経験者の75.6%、20代の44.1%が最近1年間に実施しているが、50代で最近1年間に献血をした人は13.2%、60代では7.6%と、年代が高い人たちの献血頻度が落ちている。(40代以上は経験者の半数以上が10年間実施していない)
- キャンペーンの認知率は全体で8.9%、世代別に見ても6%~11%と、高くはない。
比較的認知率が高い世代は20代と60代。献血関心層のキャンペーン認知率は14.8%であった。
認知者ベースで、キャンペーンの広報資材に触れた場所を見ると、30代~40代は「献血会場」の占める数値が高く、10代~20代や50代以上の人は、相対的に「献血会場」が低い。
10代は『テレビCM』や『チラシ』、20代は『ラジオ献血情報番組』『新聞や雑誌記事』、30代は『日赤PCサイト』などインターネット、40代は『その他ラジオ番組』、60代は『街頭』(ポスター)や『新聞や雑誌広告』での認知ケースが多く、世代によって効果的なツールが異なることが分かる。
- ロゴマークは“かわいい”と若者を中心に好評。
ロゴマークは、全体に「かわいい」などと好評であり、とくにターゲットである若者からの支持が高い。
ただし、印象に残っているのはロゴマーク(認知率6.2%)よりもキャッチコピー(「献血は愛です」認知率14.1%)の方であった。
- キャンペーンを知ったことで「献血したいと思った」。
キャンペーン全体に対しては、おおむね肯定的な意見が多く、否定的な意見は少ない。PR不足を指摘する声は多い。
キャンペーンを認知することで、「実際に献血に行った(4.2%)」、「近いうちにしたいと思った(7.5%)」、「いつかしたいと思った(15.2%)」など、『献血したいと思った』人は26.8%であった。特に40代以下の方が献血したいと思う率が高い。

● 献血を身近にするためには「身近な場所を実施」していること。

献血を身近にするために必要なこととしては、PRという意見も多いが、「身近な場所で献血できること」を挙げる意見が多い。加えて、「いつどこで献血できるか」「献血した血がどのように活用されるか」「そもそも献血に行くと、何をされるのか」といった点について、説明や情報開示を求める意見が多い。

献血に関心をもっていたり、献血をしたいと思ったときに、献血会場にアクセスしにくいことと、献血についてわからないことが多いことが、献血に足を運ぶことを妨げているといえよう。

● 献血したくてもできない人が約3割もいる。

今後の献血意向で「献血したいが、体調その他の理由により、できない」と回答した人が29.0%もいる。

この「献血したい」気持ちを生かすことはできないだろうか。特に50代で39.2%、60代は52.1%もの人が「したいのにできない」と感じている。

自由回答から60代はできないと思っているケースが多いようである。

また、貧血や病歴、渡航歴などにより献血できない人も多い。

いのちと献血俳句コンテスト
キャンペーン効果測定調査 報告書

調査設計

日本赤十字社では、毎年『いのちと献血俳句コンテスト』を実施しており、今年で第4回となる。本調査では、当該キャンペーンの浸透度のみならず、今後の施策についての示唆を得る。過去3回の応募句数は以下のとおり。

第1回:298,916句 第2回:347,383句 第3回:160,584句

第3回は応募句数が、前2回に比べて大幅に減少した。第3回のみキャラクターにポケモンではなく“けんけつちゃん”を使用している。

第4回にあたる今年度コンテストでは、再びキャラクターにポケモンを使用している。

1 調査目的

本調査では、2009年に実施された「第4回いのちと献血俳句コンテスト」キャンペーンを調査対象としている。

当該キャンペーンの認知度、CMやポスター等の広報資材の認知度、実施したアクションプランに対する反応等を調査し、国民の献血に対する関心度や理解度などについての影響・効果を定量的に分析・評価することを調査の目的とした。

2 調査方法

■調査手法 インターネット調査(実施期間:2009/12/25~28)

■調査対象者 7歳~69歳の男女(全国)

※7~15歳については、保護者を通じて協力を依頼し、本人の回答を保護者がヒアリングし、入力してもよいとした。

■調査項目数 27問

■回収サンプル 2000s

■割付

	全体	7-12 歳	13-15 歳	16-19 歳	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳
男性	1000	125	125	125	125	125	125	125	125
女性	1000	125	125	125	125	125	125	125	125

結果概要

《コンテストの認知》

- 「いのちと献血俳句コンテスト」の認知率は全国(7才～69才男女)で8.4%であった。
- 認知率が高い年代は、13才～15才(10.8%)で中学生の認知が高いことになる。
この年代の認知者の44.4%が「学校や、学校の先生を通じて」このコンテストを認知しており、学校を通じての認知促進は効果的であることがうかがえる。
- コンテスト認知者の認知経路は、「ポスター」が47.6%と最も多い。
実際にポスターを見せた上での認知率は「見たような気がする」まで含めると75.0%であることを考えると、“ポスターは見たが、コンテストのことは記憶に残らなかった”人が一定程度(約3分の1)いたと考えられる。
- コンテスト認知者の45.8%が[A]のポケモンのポスターを見ており、[B]のポスター(19.0%)に比べると、(掲示枚数が同じであれば)ポケモンポスターの効果が高かったといえる。

《コンテストへの応募》

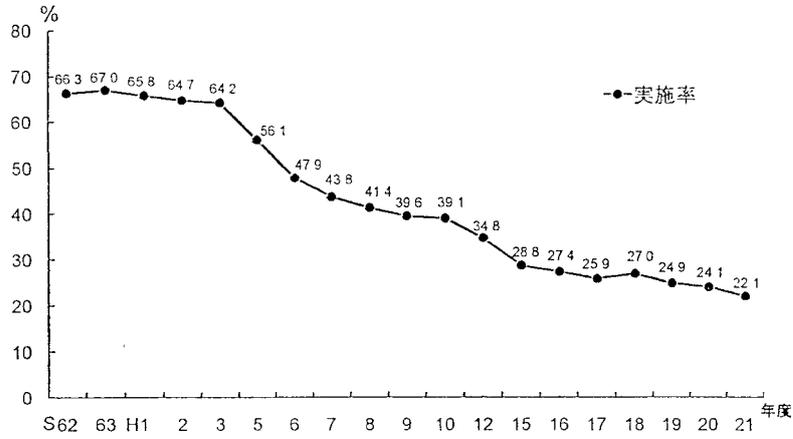
- コンテスト認知者のうち、実際に応募した率は2009年度は2.4%、過去を含めた応募経験率は7.1%である。
- 非応募理由の29.9%は「応募方法が分からなかったから」、次に多いのが「俳句が好きではない(25.6%)」である。
- “俳句は難しい、川柳などのほうが気軽に考えられる”といった意見は、自由回答で多く挙がっていた。
また“自分は献血をしたことがないため、献血に関するテーマは考えられない”という意見もみられた。

《コンテストの効果》

- コンテスト認知者の献血への関心度は68.5%で、非認知者(42.6%)に比べて明らかに高い。
- もともと献血に関心がある人が、コンテストを認知しやすい面もあると思われるが、コンテストを知ったことで「献血への理解が深まった(29.8%)」「助け合いの大切さを考えるきっかけになった(28.6%)」「いつか献血をしたいと思った(28.0%)」「いのちの尊さを考えるきっかけになった(24.4%)」などに多く回答しており、コンテストの認知が献血への関心を高め、助け合いやいのちを考えるために一定の効果があったといえるのではない。
- 俳句は若年層にはややなじみの薄いテーマではあるが、全体の5割以上が入選作品を読みたいと考えるなど、必ずしも関心がないテーマではない。ただ、“難しそう”というイメージが強い。

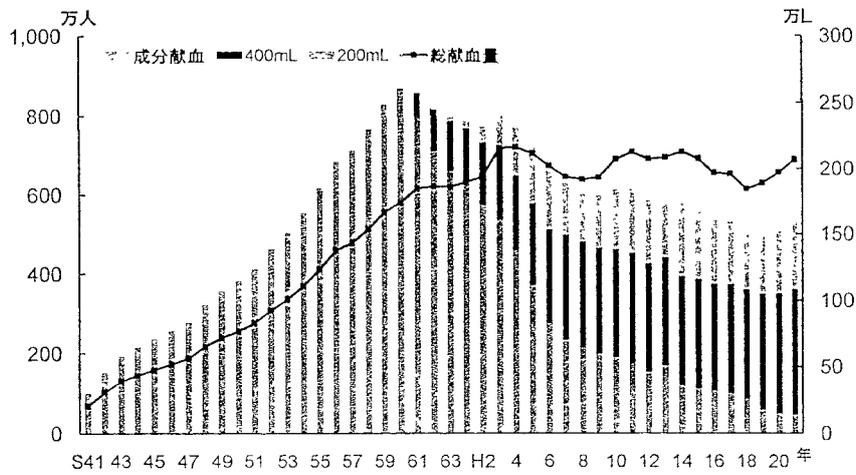
高校における献血実施状況

高校献血実施率の推移(全国)



*S60,61およびH4,11,13,14年は調査未実施

総献血量と種類別献血者数の推移



都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度～平成21年度)

(No.1)

施設名	昭和62年度				昭和63年度				平成元年度				平成2年度				平成3年度			
	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率
北海道	336	148	23,071	44.0%	333	146	22,218	43.8%	334	144	19,632	43.1%	336	132	18,341	39.3%	336	128	17,455	38.1%
青森	81	71	11,123	87.7%	82	75	12,358	91.5%	83	78	13,302	94.0%	86	80	13,372	93.0%	86	82	14,164	95.3%
岩手	96	92	9,336	95.8%	97	93	9,173	95.9%	97	94	7,727	96.9%	97	94	7,860	96.9%	97	95	8,698	97.9%
宮城	105	73	8,633	69.5%	105	77	8,530	73.3%	104	67	6,376	64.4%	104	74	7,601	71.2%	105	75	8,057	71.4%
秋田	68	68	11,104	100.0%	66	66	10,674	100.0%	66	66	10,532	100.0%	66	66	10,089	100.0%	66	66	10,541	100.0%
山形	70	65	7,557	92.9%	70	69	7,319	98.6%	70	69	7,445	98.6%	70	69	7,539	98.6%	70	67	7,273	95.7%
福島	104	98	11,998	94.2%	105	94	11,207	89.5%	107	98	11,188	91.6%	107	98	11,210	91.6%	113	90	10,556	79.6%
茨城	130	97	18,607	74.6%	130	103	20,478	79.2%	130	105	14,743	80.8%	131	108	22,756	82.4%	131	108	23,665	82.4%
栃木	83	80	26,058	96.4%	81	80	24,708	98.8%	81	81	25,567	100.0%	81	81	28,469	100.0%	81	81	27,670	100.0%
群馬	86	84	19,198	97.7%	86	84	19,248	97.7%	88	84	18,730	95.5%	88	86	19,049	97.7%	88	86	18,191	97.7%
埼玉	206	138	31,960	67.0%	207	144	31,850	69.6%	207	145	32,154	70.0%	208	150	37,475	72.1%	208	153	35,144	73.6%
千葉	204	170	44,338	83.3%	205	173	41,132	84.4%	207	169	35,861	81.6%	208	166	33,714	79.8%	207	159	31,910	76.8%
東京	444	65	12,025	14.6%	438	72	12,398	16.4%	434	70	13,479	16.1%	432	69	11,864	16.0%	434	72	13,207	16.6%
神奈川	255	71	12,326	27.8%	256	63	11,359	24.6%	254	63	10,746	24.8%	264	56	9,484	21.2%	266	56	9,556	21.1%
新潟	119	67	9,285	56.3%	119	72	9,931	60.5%	119	76	9,177	63.9%	119	74	9,494	62.2%	119	72	9,727	60.5%
富山	46	46	9,150	100.0%	46	45	10,819	97.8%	46	46	11,196	100.0%	46	46	10,507	100.0%	46	46	10,002	100.0%
石川	55	50	6,218	90.9%	55	51	5,783	92.7%	55	49	6,259	89.1%	55	50	6,270	90.9%	55	48	6,507	87.3%
福井	60	56	9,176	93.3%	60	56	9,384	93.3%	61	53	9,134	86.9%	61	57	9,089	93.4%	60	58	9,089	96.7%
山梨	36	23	2,855	63.9%	36	31	3,961	86.1%	36	31	3,999	86.1%	36	31	4,178	86.1%	36	33	4,418	91.7%
長野	106	91	10,449	85.8%	106	88	10,345	83.0%	106	80	7,413	75.5%	106	80	7,262	75.5%	106	76	7,136	71.7%
岐阜	92	90	12,478	97.8%	92	85	12,007	92.4%	109	86	11,640	78.9%	97	76	10,468	78.4%	96	75	10,141	78.1%
静岡	146	143	28,347	97.9%	146	141	29,231	96.6%	146	142	29,123	97.3%	146	143	30,130	97.9%	146	144	30,383	98.6%
愛知	224	119	22,681	53.1%	226	140	26,260	61.9%	226	149	27,013	65.9%	226	149	28,750	65.9%	225	163	30,578	72.4%
三重	77	50	5,151	64.9%	77	45	4,370	58.4%	77	35	3,681	45.5%	77	27	3,312	35.1%	77	26	2,890	33.8%
滋賀	51	48	6,919	94.1%	51	46	5,862	90.2%	52	45	4,747	86.5%	52	43	5,237	82.7%	52	40	4,658	76.9%
京都	94	33	5,494	35.1%	94	31	4,934	33.0%	94	26	4,188	27.7%	95	25	3,938	26.3%	95	24	3,705	25.3%
大阪	273	64	12,337	23.4%	278	67	13,126	24.1%	278	68	11,724	24.5%	278	63	10,459	22.7%	279	66	11,791	23.7%
兵庫	198	152	25,562	76.8%	198	154	26,871	77.8%	199	153	25,584	76.9%	199	151	26,359	75.9%	198	155	24,863	78.3%
奈良	61	56	8,927	91.8%	61	55	8,192	90.2%	62	57	8,305	91.9%	61	57	9,137	93.4%	62	58	8,879	93.5%
和歌山	42	39	6,767	92.9%	45	42	6,403	93.3%	44	36	5,015	81.8%	61	37	3,799	60.7%	61	35	5,246	57.4%
鳥取	33	33	4,206	100.0%	34	34	4,205	100.0%	34	34	4,306	100.0%	35	29	3,137	82.9%	35	33	3,309	94.3%
島根	50	47	6,531	94.0%	51	46	5,613	90.2%	51	46	6,282	90.2%	51	49	6,188	96.1%	52	48	6,643	92.3%
岡山	93	63	6,514	67.7%	93	68	6,187	73.1%	93	61	4,237	65.6%	93	56	4,550	60.2%	93	54	4,340	58.1%
広島	135	74	14,214	54.8%	136	76	15,584	55.9%	136	74	13,833	54.4%	136	70	13,352	51.5%	136	65	12,190	47.8%
山口	92	89	19,473	96.7%	91	90	20,045	98.9%	91	91	19,163	100.0%	91	89	17,584	97.8%	91	89	17,090	97.8%
徳島	42	42	4,124	100.0%	42	42	5,467	100.0%	42	42	5,277	100.0%	42	42	5,309	100.0%	42	42	5,662	100.0%
香川	42	28	3,163	66.7%	42	26	2,976	61.9%	43	30	3,293	69.8%	43	30	3,227	69.8%	43	31	3,635	72.1%
愛媛	67	64	7,380	95.5%	67	60	6,250	89.6%	66	62	6,964	93.9%	66	63	7,881	95.5%	67	65	8,507	97.0%
高知	51	4	697	7.8%	52	2	664	3.8%	52	2	647	3.8%	51	4	880	7.8%	53	3	724	5.7%
福岡	179	120	32,411	67.0%	183	113	30,926	61.7%	183	85	20,179	46.4%	184	78	18,887	42.4%	184	72	17,266	39.1%
佐賀	44	39	7,795	88.6%	47	43	8,111	91.5%	46	39	6,685	84.8%	46	39	5,898	84.8%	46	41	6,107	89.1%
長崎	85	85	17,949	100.0%	85	82	18,139	96.5%	84	82	16,457	97.6%	84	81	15,895	96.4%	84	77	11,707	91.7%
熊本	81	75	21,150	92.6%	82	75	20,828	91.5%	83	79	22,955	95.2%	83	79	22,125	95.2%	83	78	21,957	94.0%
大分	73	73	20,777	100.0%	75	73	20,276	97.3%	76	73	20,124	96.1%	75	75	19,641	100.0%	75	74	18,610	98.7%
宮崎	58	53	11,072	91.4%	58	54	11,642	93.1%	58	57	12,084	98.3%	58	58	12,780	100.0%	58	56	13,235	96.6%
鹿児島	97	89	18,349	91.8%	101	93	19,808	92.1%	101	94	19,888	93.1%	101	91	18,245	90.1%	101	94	17,595	93.1%
沖縄	62	45	7,180	72.6%	62	54	7,246	87.1%	63	52	6,781	82.5%	63	56	7,544	88.9%	63	46	4,912	73.0%
合計	5,232	3,470	632,115	66.3%	5,252	3,519	634,096	67.0%	5,274	3,468	594,835	65.8%	5,295	3,427	600,335	64.7%	5,307	3,405	589,589	64.2%

*昭和60年, 61年度および平成4年, 11年, 13年, 14年度は調査未実施(厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため)

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度～平成21年度)

(No.2)

施設名	平成5年度				平成6年度				平成7年度				平成8年度				平成9年度			
	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率												
北海道	335	98	7,933	29.3%	336	80	7,945	23.8%	334	83	6,423	24.9%	334	82	5,773	24.6%	336	80	5,048	23.8%
青森	86	80	12,109	93.0%	86	79	9,407	91.9%	86	66	5,319	76.7%	86	68	4,401	79.1%	86	56	3,526	65.1%
岩手	97	92	9,031	94.8%	97	94	8,547	96.9%	97	93	6,150	95.9%	97	94	4,960	96.9%	97	87	4,851	89.7%
宮城	105	70	6,640	66.7%	105	66	5,596	62.9%	113	64	4,895	56.6%	113	64	4,387	56.6%	107	68	4,428	63.6%
秋田	64	64	9,044	100.0%	64	64	7,237	100.0%	64	64	6,235	100.0%	64	62	5,918	96.9%	65	61	5,407	93.8%
山形	70	66	6,725	94.3%	70	65	6,232	92.9%	72	67	5,643	93.1%	72	62	4,875	86.1%	72	63	4,501	87.5%
福島	117	79	9,562	67.5%	117	74	8,560	63.2%	118	77	7,000	65.3%	118	73	5,494	61.9%	113	71	5,460	62.8%
茨城	132	103	17,399	78.0%	126	98	15,271	77.8%	131	94	11,208	71.8%	131	85	8,586	64.9%	131	48	4,799	36.6%
栃木	81	81	17,399	100.0%	81	80	5,436	98.8%	81	78	10,828	96.3%	81	79	9,996	97.5%	81	80	10,173	98.8%
群馬	88	85	14,634	96.6%	88	70	8,778	79.5%	89	70	6,770	78.7%	85	64	6,081	75.3%	87	68	6,769	78.2%
埼玉	209	151	28,289	72.2%	209	148	24,932	70.8%	209	103	15,940	49.3%	209	95	12,618	45.5%	209	92	11,538	44.0%
千葉	201	146	21,253	72.6%	202	107	10,165	53.0%	202	96	8,336	47.5%	204	83	7,324	40.7%	202	87	8,119	43.1%
東京	434	46	7,608	10.6%	399	20	4,235	5.0%	456	20	3,313	4.4%	456	25	3,393	5.5%	455	26	3,225	5.7%
神奈川	256	48	7,688	18.8%	255	36	5,184	14.1%	256	28	4,287	10.9%	256	17	3,196	6.6%	259	18	2,865	6.9%
新潟	122	52	6,325	42.6%	122	30	4,566	24.6%	127	47	4,445	37.0%	120	39	3,180	32.5%	120	35	2,723	29.2%
富山	47	45	9,131	95.7%	47	46	7,679	97.9%	47	46	7,512	97.9%	47	46	6,631	97.9%	48	46	5,400	95.8%
石川	55	43	4,813	78.2%	55	38	4,171	69.1%	55	36	3,555	65.5%	56	30	2,604	53.6%	59	30	2,604	50.8%
福井	66	29	4,486	43.9%	66	14	1,986	21.2%	66	17	2,005	25.8%	66	34	3,167	51.5%	66	12	1,354	18.2%
山梨	36	21	2,523	58.3%	36	20	1,842	55.6%	36	20	1,842	55.6%	36	14	1,562	38.9%	37	16	1,564	43.2%
長野	106	76	5,657	71.7%	106	75	4,951	70.8%	106	70	3,907	66.0%	88	64	3,215	72.7%	107	57	2,843	53.3%
岐阜	95	72	7,149	75.8%	95	61	5,743	64.2%	95	67	5,297	70.5%	95	51	3,867	53.7%	93	45	3,649	48.4%
静岡	148	146	25,047	98.6%	158	146	20,067	92.4%	148	143	17,924	96.6%	148	141	14,126	95.3%	148	137	14,567	92.6%
愛知	232	151	24,166	65.1%	238	99	13,922	41.6%	238	55	7,234	23.1%	238	61	6,681	25.6%	238	60	6,843	25.2%
三重	79	23	2,117	29.1%	79	14	1,198	17.7%	75	16	1,259	21.3%	75	13	988	17.3%	76	14	1,130	18.4%
滋賀	52	22	2,193	42.3%	52	24	1,876	46.2%	52	19	1,289	36.5%	52	21	1,349	40.4%	53	19	1,177	35.8%
京都	95	7	831	7.4%	96	1	96	1.0%	96	1	67	1.0%	96	1	57	1.0%	97	2	219	2.1%
大阪	280	51	7,796	18.2%	278	39	6,015	14.0%	284	34	4,255	12.0%	284	30	3,499	10.6%	284	36	3,702	12.7%
兵庫	199	137	17,566	68.8%	201	102	11,534	50.7%	202	109	11,381	54.0%	202	107	10,211	53.0%	203	100	8,931	49.3%
奈良	62	53	7,885	85.5%	62	56	8,028	90.3%	62	41	5,334	66.1%	62	27	2,218	43.5%	65	25	2,057	38.5%
和歌山	60	30	2,953	50.0%	61	22	2,044	36.1%	61	22	1,772	36.1%	61	18	940	29.5%	64	17	943	26.6%
鳥取	35	28	2,509	80.0%	34	30	1,957	88.2%	35	28	1,573	80.0%	35	29	1,730	82.9%	35	28	1,494	80.0%
島根	54	51	5,573	94.4%	54	48	5,078	88.9%	54	45	3,800	83.3%	53	43	3,825	81.1%	51	47	3,248	92.2%
岡山	93	53	3,710	57.0%	93	46	2,727	49.5%	93	43	2,372	46.2%	93	46	2,428	49.5%	108	45	2,166	41.7%
広島	136	48	8,436	35.3%	145	28	4,277	19.3%	145	25	2,631	17.2%	181	25	2,158	13.8%	145	25	2,215	17.2%
山口	91	85	12,740	93.4%	91	79	9,657	86.8%	91	61	4,221	67.0%	91	36	2,502	39.6%	91	35	1,978	38.5%
徳島	42	41	3,843	97.6%	42	42	3,720	100.0%	42	42	3,055	100.0%	42	42	2,818	100.0%	43	42	2,655	97.7%
香川	43	34	3,260	79.1%	43	21	1,895	48.8%	43	27	2,020	62.8%	45	27	2,019	60.0%	45	25	1,634	55.6%
愛媛	67	63	7,115	94.0%	67	52	5,256	77.6%	66	41	3,442	62.1%	66	37	2,694	56.1%	74	47	3,331	63.5%
高知	53	5	684	9.4%	53	7	941	13.2%	53	6	541	11.3%	53	3	372	5.7%	54	5	488	9.3%
福岡	182	31	4,310	17.0%	182	9	984	4.9%	182	4	575	2.2%	182	5	563	2.7%	182	3	319	1.6%
佐賀	46	29	3,905	63.0%	45	30	2,909	66.7%	45	28	2,124	62.2%	46	24	1,945	52.2%	46	19	1,531	41.3%
長崎	86	67	5,750	77.9%	86	49	3,208	57.0%	86	48	3,261	55.8%	86	51	3,088	59.3%	86	53	3,132	61.6%
熊本	88	75	15,461	85.2%	89	75	11,825	84.3%	82	75	9,311	91.5%	89	74	9,478	83.1%	82	74	9,433	90.2%
大分	75	69	8,471	92.0%	75	55	5,592	73.3%	75	39	2,918	52.0%	75	48	3,779	64.0%	77	42	3,409	54.5%
宮崎	57	54	10,762	94.7%	57	50	5,535	87.7%	57	43	4,973	75.4%	59	43	4,990	72.9%	59	41	5,348	69.5%
鹿児島	100	62	11,467	62.0%	100	29	3,983	29.0%	102	30	3,494	29.4%	104	40	3,825	38.5%	104	39	3,965	37.5%
沖縄	64	25	1,512	39.1%	65	22	1,203	33.8%	65	25	1,162	38.5%	65	14	666	21.5%	65	14	718	21.5%
合計	5,321	2,987	415,460	56.1%	5,308	2,540	293,990	47.9%	5,374	2,356	232,898	43.8%	5,397	2,237	200,177	41.4%	5,405	2,140	187,479	39.6%

*昭和60年, 61年度および平成4年, 11年, 13年, 14年度は調査未実施(厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため)

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度～平成21年度)

(No.3)

施設名	平成10年度				平成12年度				平成15年度				平成16年度				平成17年度			
	設置数	実施数	献血数	実施率																
北海道	334	72	4,875	21.6%	334	60	4,220	18.0%	355	60	4,279	16.9%	344	52	4,091	15.1%	342	46	3,493	13.5%
青森	86	55	3,291	64.0%	91	54	2,772	59.3%	88	58	3,113	65.9%	92	55	2,585	59.8%	90	52	2,635	57.8%
岩手	97	89	4,014	91.8%	97	93	3,210	95.9%	98	90	2,515	91.8%	94	83	2,163	88.3%	93	86	2,464	92.5%
宮城	107	70	4,021	65.4%	113	70	3,932	61.9%	177	95	5,978	53.7%	112	72	2,950	64.3%	105	69	2,968	65.7%
秋田	65	62	5,619	95.4%	68	62	5,323	91.2%	63	60	4,067	95.2%	63	60	3,418	95.2%	63	60	3,491	95.2%
山形	71	61	4,315	85.9%	71	65	4,988	91.5%	72	71	4,290	98.6%	69	66	4,449	95.7%	69	65	4,290	94.2%
福島	111	62	5,006	55.9%	111	59	4,387	53.2%	143	81	4,895	56.6%	129	55	3,353	42.6%	134	66	2,944	49.3%
茨城	132	83	7,374	62.9%	132	78	6,695	59.1%	133	79	4,785	59.4%	125	79	4,549	63.2%	134	74	4,281	55.2%
栃木	81	80	10,585	98.8%	82	80	13,949	97.6%	87	84	9,469	96.6%	82	80	8,324	97.6%	82	79	8,314	96.3%
群馬	87	66	6,048	75.9%	86	63	6,143	73.3%	156	86	6,296	55.1%	146	72	5,521	49.3%	146	72	5,320	49.3%
埼玉	209	90	10,778	43.1%	211	89	8,837	42.2%	211	78	8,360	37.0%	180	86	8,810	47.8%	209	79	7,771	37.8%
千葉	203	86	7,634	42.4%	203	80	6,577	39.4%	249	108	9,146	43.4%	230	74	5,253	32.2%	204	70	5,412	34.3%
東京	456	26	3,001	5.7%	451	21	2,275	4.7%	904	56	5,802	6.2%	853	43	4,064	5.0%	907	59	5,593	6.5%
神奈川	262	14	2,458	5.3%	262	11	2,109	4.2%	225	11	1,718	4.9%	216	10	1,628	4.6%	244	10	1,611	4.1%
新潟	120	37	2,971	30.8%	120	19	1,290	15.8%	119	13	844	10.9%	124	7	388	5.6%	124	3	149	2.4%
富山	48	47	6,301	97.9%	59	26	2,388	44.1%	61	20	1,919	32.8%	61	18	1,857	29.5%	60	19	1,599	31.7%
石川	59	35	2,991	59.3%	65	13	1,636	20.0%	60	9	1,191	15.0%	69	12	1,479	17.4%	67	11	1,598	16.4%
福井	66	11	1,425	16.7%	37	27	2,283	73.0%	65	27	2,092	41.5%	45	14	1,059	31.1%	44	11	926	25.0%
山梨	37	20	1,510	54.1%	46	44	5,598	95.7%	44	42	2,718	95.5%	45	42	2,749	93.3%	47	42	2,729	89.4%
長野	107	54	2,504	50.5%	106	37	1,730	34.9%	110	18	846	16.4%	108	13	694	12.0%	108	13	708	12.0%
岐阜	93	45	3,148	48.4%	91	41	2,606	45.1%	94	35	1,848	37.2%	91	34	1,605	37.4%	91	31	1,577	34.1%
静岡	148	136	12,572	91.9%	146	132	10,866	90.4%	148	127	8,605	85.8%	151	124	8,219	82.1%	150	122	7,331	81.3%
愛知	238	58	5,026	24.4%	197	6	492	3.0%	242	9	794	3.7%	229	8	649	3.5%	262	18	1,017	6.9%
三重	78	14	1,138	17.9%	79	21	1,221	26.8%	111	3	106	2.7%	88	2	113	2.3%	80	1	20	1.3%
滋賀	53	10	743	18.9%	53	7	587	13.2%	54	7	518	13.0%	54	7	412	13.0%	63	7	405	11.1%
京都	103	2	206	1.9%	104	3	165	2.9%	107	8	740	7.5%	123	5	498	4.1%	121	2	203	1.7%
大阪	284	32	3,266	11.3%	284	26	2,682	9.2%	528	60	5,788	11.4%	525	66	5,682	12.6%	335	30	2,286	9.0%
兵庫	203	87	7,699	42.9%	223	67	4,454	30.0%	256	43	2,607	16.8%	235	22	1,317	9.4%	226	25	1,135	11.1%
奈良	64	23	1,809	35.9%	62	28	2,510	45.2%	64	29	2,749	45.3%	65	26	4,541	40.0%	59	22	1,788	37.3%
和歌山	64	18	976	28.1%	64	17	830	26.6%	70	24	1,148	34.3%	70	32	1,425	45.7%	70	38	1,596	54.3%
鳥取	35	30	2,073	85.7%	34	29	1,371	85.3%	35	27	1,223	77.1%	35	22	1,148	62.9%	31	20	931	64.5%
島根	51	46	2,662	90.2%	50	46	2,320	92.0%	48	41	2,032	85.4%	51	41	1,615	80.4%	52	41	1,763	78.8%
岡山	108	42	2,117	38.9%	113	38	1,958	33.6%	109	34	1,592	31.2%	101	23	1,142	22.8%	101	11	701	10.9%
広島	143	25	2,536	17.5%	143	21	1,981	14.7%	281	36	3,499	12.8%	238	37	3,822	15.5%	237	28	2,320	11.8%
山口	91	32	1,535	35.2%	92	21	887	22.8%	91	12	350	13.2%	92	9	238	9.8%	92	10	278	10.9%
徳島	43	42	2,299	97.7%	43	39	1,700	90.7%	50	46	1,776	92.0%	61	43	1,512	70.5%	45	36	1,360	80.0%
香川	47	23	1,934	48.9%	45	26	1,594	57.8%	47	28	1,706	59.6%	47	28	1,641	59.6%	47	20	1,065	42.6%
愛媛	73	55	3,724	75.3%	74	39	1,986	52.7%	109	36	1,995	33.0%	99	28	1,694	28.3%	99	12	545	12.1%
高知	54	4	412	7.4%	50	3	376	6.0%	83	26	2,098	31.3%	56	5	467	8.9%	57	4	543	7.0%
福岡	180	5	391	2.8%	182	8	570	4.4%	301	36	2,568	12.0%	301	60	4,876	19.9%	188	18	1,594	9.6%
佐賀	46	20	1,650	43.5%	46	3	101	6.5%	48	5	262	10.4%	48	3	218	6.3%	48	3	218	6.3%
長崎	86	53	2,661	61.6%	85	43	1,772	50.6%	127	39	1,757	30.7%	110	35	1,617	31.8%	110	32	1,186	29.1%
熊本	83	73	8,744	88.0%	97	57	6,060	58.8%	160	37	2,696	23.1%	130	38	2,023	29.2%	86	21	1,291	24.4%
大分	75	21	1,760	28.0%	75	6	317	8.0%	77	7	480	9.1%	70	5	284	7.1%	71	6	390	8.5%
宮崎	59	38	4,645	64.4%	59	42	3,504	71.2%	103	34	1,600	33.0%	79	29	1,546	36.7%	79	11	408	13.9%
鹿児島	104	42	4,301	40.4%	104	44	3,723	42.3%	114	46	3,532	40.4%	113	45	3,418	39.8%	106	43	2,544	40.6%
沖縄	65	17	742	26.2%	67	16	720	23.9%	66	19	704	28.8%	67	16	756	23.9%	67	19	869	28.4%
合計	5,409	2,113	177,490	39.1%	5,407	1,880	147,695	34.8%	6,943	2,000	139,096	28.8%	6,516	1,786	121,862	27.4%	6,245	1,617	103,660	25.9%

*昭和60年, 61年度および平成4年, 11年, 13年, 14年度は調査未実施(厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため)

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度～平成21年度)

(No 4)

施設名	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度			
	設置数	実施数	献血数	実施率												
北海道	331	45	3,154	13.6%	331	44	2,728	13.3%	320	47	3,057	14.7%	372	41	2,652	11.0%
青森	98	59	2,755	60.2%	88	45	1,541	51.1%	88	45	1,595	51.1%	86	42	1,160	48.8%
岩手	92	86	2,301	93.5%	92	80	1,596	87.0%	87	77	1,924	88.5%	84	67	1,803	79.8%
宮城	107	71	2,593	66.4%	112	63	2,098	56.3%	103	60	1,389	58.3%	107	57	1,325	53.3%
秋田	63	60	3,147	95.2%	67	58	2,652	86.6%	67	55	2,205	82.1%	67	55	2,059	82.1%
山形	69	63	3,517	91.3%	69	63	2,715	91.3%	69	58	2,776	84.1%	70	55	2,601	78.6%
福島	128	57	2,341	44.5%	107	46	1,648	43.0%	107	45	1,613	42.1%	107	42	1,395	39.3%
茨城	132	76	3,969	57.6%	132	75	3,999	56.8%	131	69	3,315	52.7%	134	64	3,177	47.8%
栃木	84	79	7,240	94.0%	81	74	6,718	91.4%	79	74	6,798	93.7%	75	67	6,132	89.3%
群馬	161	100	7,747	62.1%	87	57	3,507	65.5%	87	58	3,340	66.7%	86	54	3,026	62.8%
埼玉	209	86	7,592	41.1%	204	117	7,307	57.4%	204	116	7,569	56.9%	203	112	6,965	55.2%
千葉	204	67	4,717	32.8%	189	66	4,424	34.9%	189	58	4,163	30.7%	194	57	4,139	29.4%
東京	451	19	1,599	4.2%	450	16	1,251	3.6%	683	42	3,561	6.1%	441	17	1,073	3.9%
神奈川	247	10	1,318	4.0%	247	9	1,243	3.6%	245	8	1,131	3.3%	353	9	916	2.5%
新潟	116	4	178	3.4%	112	7	379	6.3%	108	3	128	2.8%	112	5	195	4.5%
富山	60	17	1,405	28.3%	61	16	1,324	26.2%	67	16	1,181	23.9%	60	15	1,018	25.0%
石川	64	15	1,370	23.4%	64	9	944	14.1%	62	6	460	9.7%	56	3	157	5.4%
福井	44	10	704	22.7%	44	10	670	22.7%	44	9	444	20.5%	42	7	320	16.7%
山梨	45	41	2,589	91.1%	45	40	2,092	88.9%	45	40	2,092	88.9%	45	42	2,150	93.3%
長野	108	14	625	13.0%	108	11	529	10.2%	110	13	659	11.8%	104	10	581	9.6%
岐阜	88	28	1,379	31.8%	85	25	1,079	29.4%	80	22	904	27.5%	114	29	1,084	25.4%
静岡	150	108	5,992	72.0%	150	100	4,857	66.7%	148	92	3,778	62.2%	147	78	2,843	53.1%
愛知	248	16	1,201	6.5%	225	13	733	5.8%	225	14	1,072	6.2%	224	14	1,014	6.3%
三重	80	1	25	1.3%	80	1	18	1.3%	82	2	116	2.4%	92	3	160	3.3%
滋賀	63	7	392	11.1%	63	7	396	11.1%	65	5	240	7.7%	65	6	249	9.2%
京都	112	13	1,267	11.6%	112	11	971	9.8%	112	13	950	11.6%	112	14	958	12.5%
大阪	536	66	4,251	12.3%	273	16	1,051	5.9%	274	11	912	4.0%	272	12	951	4.4%
兵庫	247	10	1,318	4.0%	227	23	933	10.1%	221	17	652	7.7%	221	17	688	7.7%
奈良	54	19	938	35.2%	56	2	100	3.6%	57	0	0	0.0%	55	0	0	0.0%
和歌山	70	33	1,186	47.1%	54	22	721	40.7%	51	21	713	41.2%	47	23	722	48.9%
鳥取	32	17	419	53.1%	33	16	269	48.5%	34	7	66	20.6%	35	4	39	11.4%
島根	52	37	962	71.2%	51	21	189	41.2%	52	16	183	30.8%	50	15	224	30.0%
岡山	101	11	595	10.9%	101	6	293	5.9%	91	3	149	3.3%	91	4	158	4.4%
広島	167	32	2,641	19.2%	146	19	1,167	13.0%	146	17	962	11.6%	142	16	1,059	11.3%
山口	92	11	272	12.0%	84	4	100	4.8%	89	2	39	2.2%	84	1	18	1.2%
徳島	43	27	1,005	62.8%	43	3	150	7.0%	45	1	26	2.2%	41	1	46	2.4%
香川	47	18	789	38.3%	47	12	434	25.5%	47	12	410	25.5%	47	8	360	17.0%
愛媛	100	10	405	10.0%	105	8	295	7.6%	68	1	26	1.5%	75	11	329	14.7%
高知	57	5	456	8.8%	57	4	383	7.0%	57	6	277	10.5%	57	4	223	7.0%
福岡	188	17	1,904	9.0%	258	18	1,835	7.0%	167	32	1,781	19.2%	168	21	849	12.5%
佐賀	47	3	217	6.4%	47	4	193	8.5%	45	4	246	8.9%	46	4	273	8.7%
長崎	110	31	1,167	28.2%	85	26	1,187	30.6%	96	29	1,400	30.2%	96	28	1,289	29.2%
熊本	83	18	827	21.7%	88	14	371	15.9%	84	10	390	11.9%	83	10	414	12.0%
大分	69	8	368	11.6%	92	6	183	6.5%	62	6	183	9.7%	62	4	168	6.5%
宮崎	79	12	586	15.2%	57	9	229	15.8%	60	9	359	15.0%	62	10	290	16.1%
鹿児島	106	38	1,950	35.8%	171	59	2,852	34.5%	107	24	2,004	22.4%	107	19	825	17.8%
沖縄	68	17	633	25.0%	52	14	551	26.9%	65	24	929	36.9%	65	29	1,086	44.6%
合計	5,902	1,592	94,006	27.0%	5,532	1,369	70,905	24.7%	5,525	1,299	68,167	23.5%	5,458	1,206	59,163	22.1%

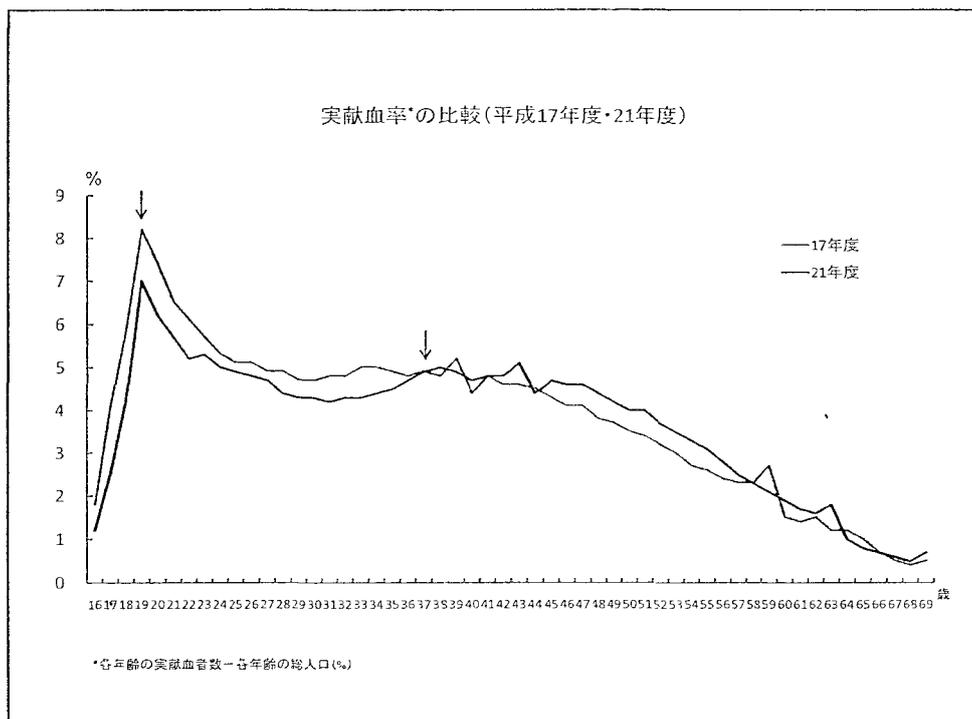
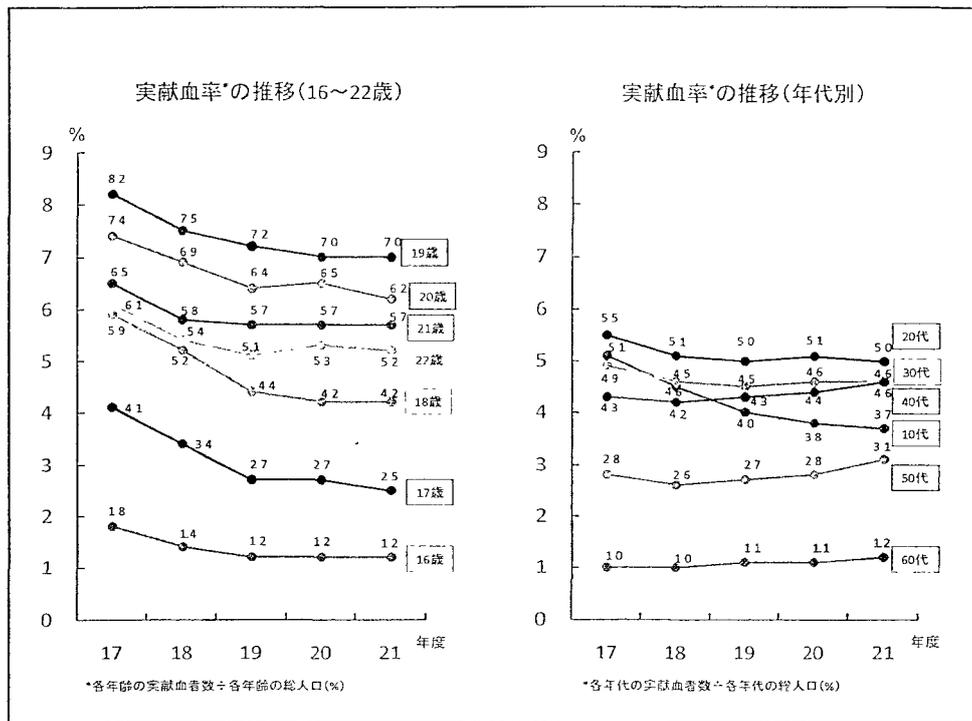
*昭和60年, 61年度および平成4年, 11年, 13年, 14年度は調査未実施(厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査報告しているため)

大学における献血実施状況

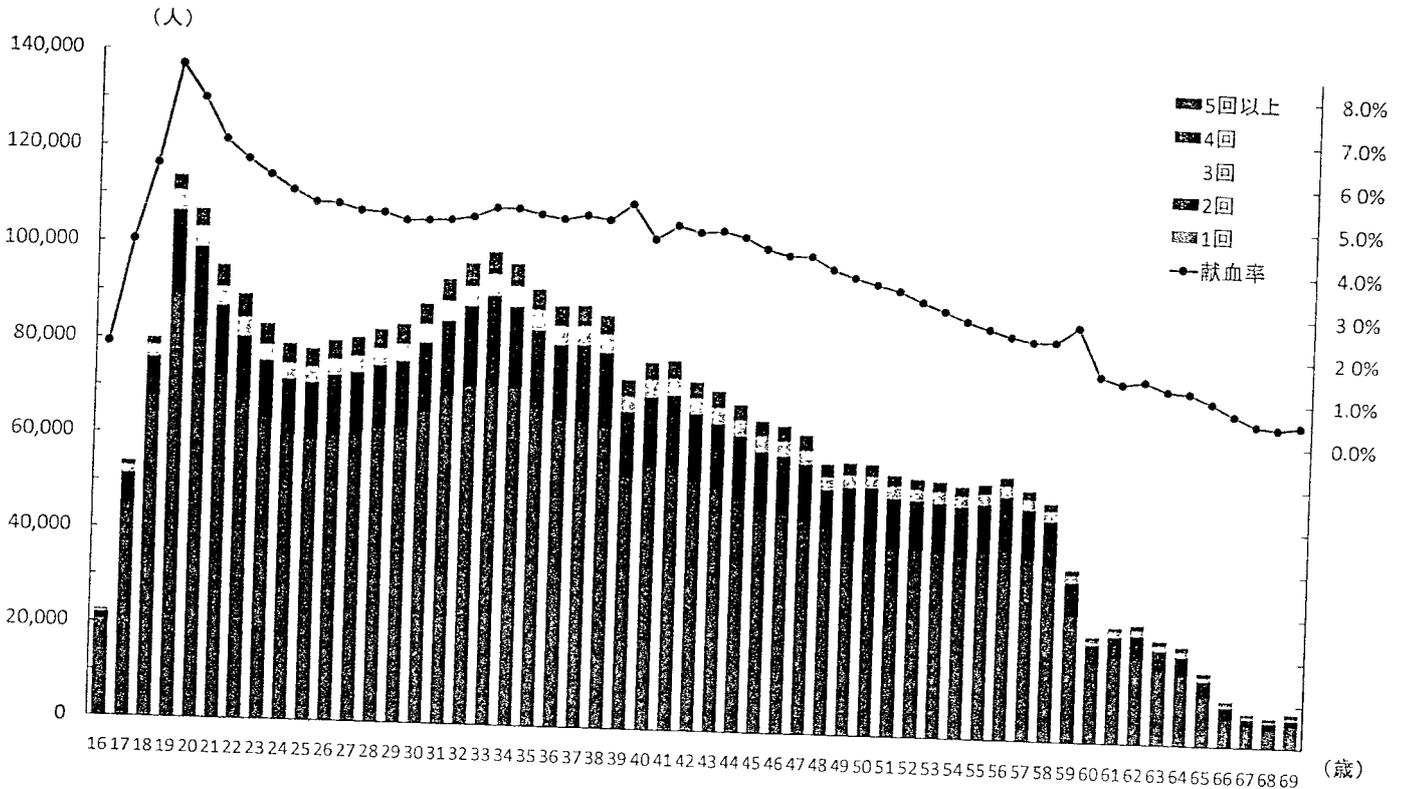
大学における献血実施状況(平成21年度)

施設名	設置校数	献血実施校数	献血者数	実施率
北海道	80	64	6,103	80.0%
青森	19	15	1,406	78.9%
岩手	11	7	882	63.6%
宮城	27	22	1,151	81.5%
秋田	15	11	889	73.3%
山形	12	12	832	100.0%
福島	15	11	1,269	73.3%
茨城	14	10	819	71.4%
栃木	13	13	1,501	100.0%
群馬	32	16	1,186	50.0%
埼玉	53	41	5,195	77.4%
千葉	43	34	6,419	79.1%
東京	241	100	16,913	41.5%
神奈川	65	39	3,946	60.0%
新潟	25	16	1,674	64.0%
富山	10	6	337	60.0%
石川	15	5	1,432	33.3%
福井	9	6	1,003	66.7%
山梨	14	10	1,667	71.4%
長野	22	13	773	59.1%
岐阜	24	18	958	75.0%
静岡	24	20	1,555	83.3%
愛知	78	32	3,598	41.0%
三重	13	5	705	38.5%
滋賀	13	10	1,136	76.9%
京都	45	32	4,340	71.1%
大阪	89	33	7,183	37.1%
兵庫	54	31	3,943	57.4%
奈良	17	13	1,722	76.5%
和歌山	5	3	603	60.0%
鳥取	4	4	575	100.0%
島根	5	5	333	100.0%
岡山	26	13	2,565	50.0%
広島	34	28	3,175	82.4%
山口	17	11	1,946	64.7%
徳島	7	7	625	100.0%
香川	11	10	794	90.9%
愛媛	14	7	788	50.0%
高知	8	7	1,223	87.5%
福岡	55	32	8,661	58.2%
佐賀	6	4	930	66.7%
長崎	15	12	1,452	80.0%
熊本	13	12	1,979	92.3%
大分	12	6	1,199	50.0%
宮崎	12	7	514	58.3%
鹿児島	10	6	1,070	60.0%
沖縄	10	6	1,451	60.0%
合計	1,356	825	110,420	60.8%

10 代および年代別の献血率



平成17年度 年齢別実献血者数の推移(年間献血回数別)



10代	献血回数	16歳	17歳	18歳	19歳	計
	5回以上	62	303	779	2,021	3,165
4回	174	738	881	1,288	3,081	
3回	449	1,600	2,441	4,011	8,501	
2回	1,698	5,827	8,484	17,614	33,623	
1回	20,283	45,692	67,616	89,073	222,664	
計	22,666	54,160	80,201	114,007	271,034	
献血率	1.8%	4.1%	5.9%	8.2%	5.1%	
総人口(万人)	127.3	131.3	135.7	139.1	533.4	

20代	献血回数	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	計
	5回以上	2,624	3,102	3,453	3,105	2,974	2,843	2,920	2,953	2,986	3,021	29,981
4回	1,353	1,435	1,603	1,408	1,282	1,272	1,190	1,235	1,274	1,336	13,388	
3回	4,010	3,855	3,834	3,294	3,233	3,166	3,242	3,254	3,461	3,579	34,928	
2回	16,529	14,245	13,396	12,250	11,880	11,995	12,664	12,811	13,258	13,892	132,920	
1回	82,529	72,778	67,361	63,454	60,094	59,298	60,316	60,890	62,026	62,357	651,103	
計	107,045	95,415	89,647	83,511	79,463	78,574	80,332	81,143	83,005	84,185	862,320	
献血率	7.4%	6.5%	6.1%	5.7%	5.3%	5.1%	5.1%	4.9%	4.9%	4.7%	5.5%	
総人口(万人)	144.3	147.1	148.1	146.9	148.6	154.7	158.9	165.5	170.2	178.8	1,563.1	

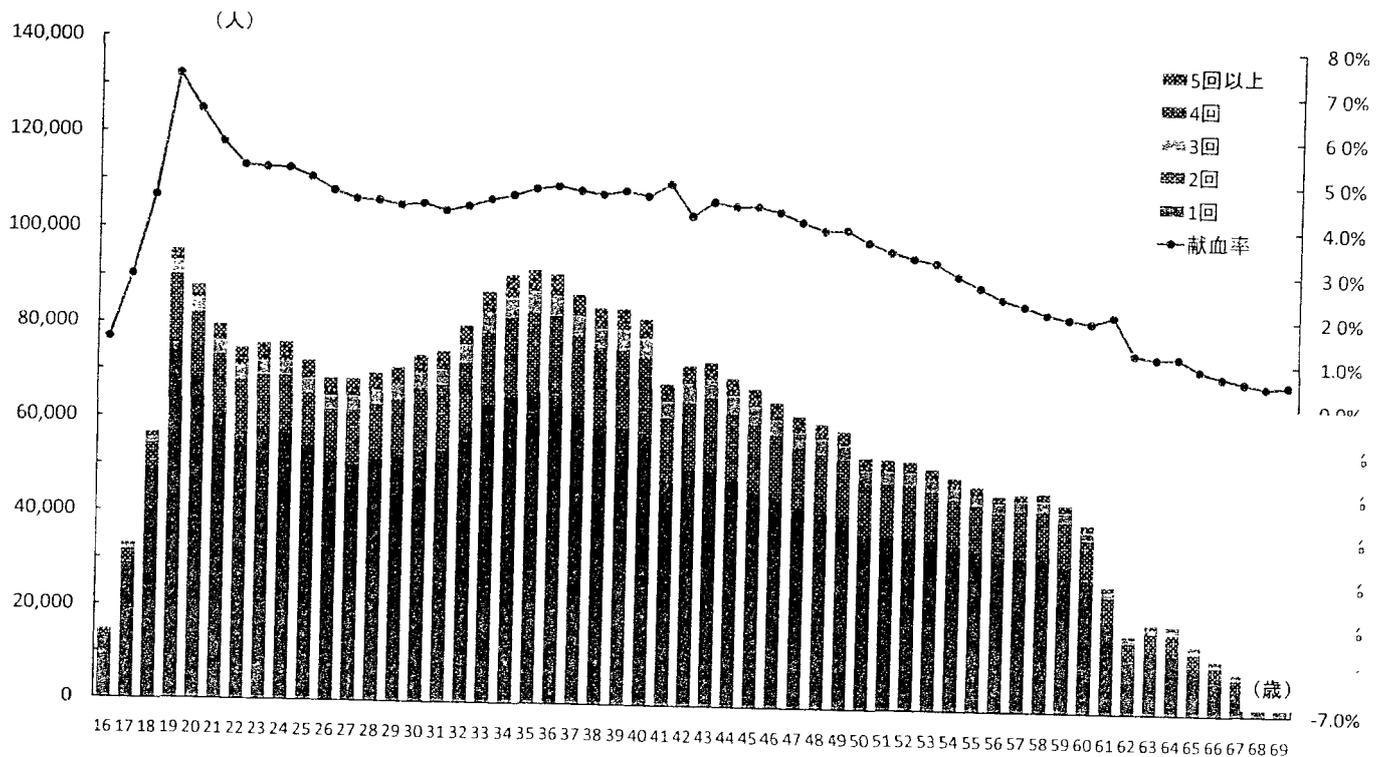
30代	献血回数	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	計
	5回以上	3,094	3,341	3,494	3,432	3,342	3,304	3,128	3,150	3,032	2,661	31,978
4回	1,314	1,302	1,338	1,339	1,280	1,219	1,146	1,162	1,080	903	12,083	
3回	3,728	4,102	4,107	4,255	4,282	4,105	3,874	3,948	3,765	3,246	39,412	
2回	14,572	15,897	16,922	17,440	17,191	16,643	15,947	16,333	15,860	13,844	160,649	
1回	65,814	69,088	71,273	73,110	71,166	66,970	64,779	64,458	63,440	53,211	663,309	
計	88,522	93,730	97,134	99,576	97,261	92,241	88,874	89,051	87,177	73,865	907,431	
献血率	4.7%	4.8%	4.8%	5.0%	5.0%	4.9%	4.8%	4.9%	4.8%	4.6%	4.9%	
総人口(万人)	187.4	197.3	201.0	197.2	192.7	187.3	184.1	180.6	180.2	178.8	1,849.1	

40代	献血回数	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	計
	5回以上	2,780	2,817	2,599	2,709	2,568	2,447	2,431	2,308	2,104	1,918	24,681
4回	978	960	907	902	843	847	796	815	632	678	8,358	
3回	3,516	3,527	3,304	3,313	3,236	3,076	2,916	2,921	2,649	2,642	31,100	
2回	14,694	14,651	14,159	13,792	13,478	12,552	12,461	12,145	10,956	11,344	130,232	
1回	55,613	56,099	52,815	51,264	49,147	46,997	46,355	45,065	41,063	41,188	485,606	
計	77,581	78,054	73,784	71,980	69,272	65,919	64,959	63,254	57,404	57,770	679,977	
献血率	4.4%	4.8%	4.6%	4.6%	4.5%	4.3%	4.1%	4.1%	3.8%	3.7%	4.3%	
総人口(万人)	175.4	164.3	160.2	155.0	153.1	154.5	157.6	153.4	149.6	157.5	1,580.6	

50代	献血回数	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	計
	5回以上	1,899	1,775	1,765	1,641	1,573	1,440	1,391	1,350	1,273	857	14,964
4回	613	594	560	540	516	515	498	511	454	295	5,098	
3回	2,464	2,450	2,291	2,295	2,181	2,243	2,236	2,114	2,099	1,451	21,824	
2回	11,335	10,847	10,608	10,646	10,489	10,377	10,886	10,370	9,634	7,066	102,258	
1回	41,284	39,802	39,671	39,318	38,786	39,517	40,756	38,630	37,110	26,943	381,817	
計	57,595	55,468	54,895	54,440	53,545	54,092	55,767	52,975	50,570	36,612	525,959	
献血率	3.5%	3.4%	3.2%	3.0%	2.7%	2.6%	2.4%	2.3%	2.3%	2.7%	2.8%	
総人口(万人)	163.1	163.4	174.0	183.8	195.3	210.4	230.9	229.3	218.1	136.8	1,905.1	

60代	献血回数	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	計	合計
	5回以上	556	636	706	658	677	586	514	375	430	596	5,734	
4回	218	238	279	256	269	220	149	140	142	164	2,075	44,081	
3回	927	1,115	1,290	1,133	1,102	945	716	563	464	540	8,795	144,560	
2回	4,282	4,703	4,768	4,370	4,043	3,347	2,332	1,696	1,535	1,585	32,661	592,343	
1回	16,727	18,131	18,375	15,823	14,980	10,661	6,215	4,463	3,957	4,578	113,910	2,518,409	
計	22,710	24,823	25,418	22,240	21,071	15,759	9,926	7,237	6,528	7,463	163,175	3,409,896	
献血率	1.5%	1.4%	1.5%	1.2%	1.2%	1.0%	0.7%	0.5%	0.4%	0.5%	1.0%	3.8%	
総人口(万人)	147.1	179.6	174.5	179.2	174.0	158.4	137.7	146.7	150.4	150.1	1,597.8	9,029.1	

平成19年度 年齢別実献血者数の推移(年間献血回数別)



16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69

10代	献血回数	16歳	17歳	18歳	19歳	計
	5回以上	48	211	550	1,558	2,367
4回	114	415	548	923	2,000	
3回	238	896	1,400	2,899	5,433	
2回	1,031	3,060	5,288	14,408	23,787	
1回	13,528	28,506	48,966	75,675	166,675	
計	14,959	33,088	56,752	95,463	200,262	
献血率	1.2%	2.7%	4.4%	7.2%	4.0%	
総人口(万人)	121.2	123.8	128.5	133.3	506.8	

20代	献血回数	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	計
	5回以上	1,868	2,314	2,629	2,617	2,812	2,767	2,664	2,629	2,621	2,745	25,666
4回	985	1,080	1,226	1,214	1,230	1,196	1,113	1,034	1,072	1,008	11,158	
3回	3,166	3,178	3,272	3,134	3,294	3,072	2,905	3,052	3,085	3,140	31,298	
2回	13,840	12,312	11,748	11,596	11,726	11,241	10,964	11,139	11,679	11,997	118,242	
1回	68,152	60,815	55,964	57,306	57,057	54,033	50,893	50,596	51,319	52,148	558,283	
計	88,011	79,699	74,839	75,867	76,119	72,309	68,539	68,450	69,776	71,038	744,647	
献血率	6.4%	5.7%	5.1%	5.1%	5.1%	4.9%	4.6%	4.4%	4.4%	4.3%	5.0%	
総人口(万人)	137.9	140.8	146.0	149.2	149.9	148.3	149.6	155.7	159.7	166.2	1,503.3	

30代	献血回数	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	計
	5回以上	2,808	2,919	3,062	3,360	3,442	3,395	3,438	3,403	3,424	3,392	32,463
4回	1,050	1,093	1,113	1,171	1,305	1,258	1,212	1,100	1,130	1,149	11,581	
3回	3,381	3,439	3,872	4,209	4,406	4,441	4,527	4,331	4,284	4,299	41,188	
2回	12,836	13,215	14,161	15,681	16,860	17,448	17,328	16,860	16,439	16,511	157,339	
1回	53,703	54,044	58,007	63,137	64,966	65,783	64,989	61,509	59,334	59,057	604,529	
計	73,778	74,710	80,215	87,557	90,979	92,325	91,494	87,203	84,431	84,408	847,100	
献血率	4.3%	4.2%	4.3%	4.4%	4.5%	4.7%	4.7%	4.7%	4.6%	4.7%	4.5%	
総人口(万人)	170.7	179.2	187.7	197.6	201.2	197.3	192.8	187.4	184.3	180.8	1,879.0	

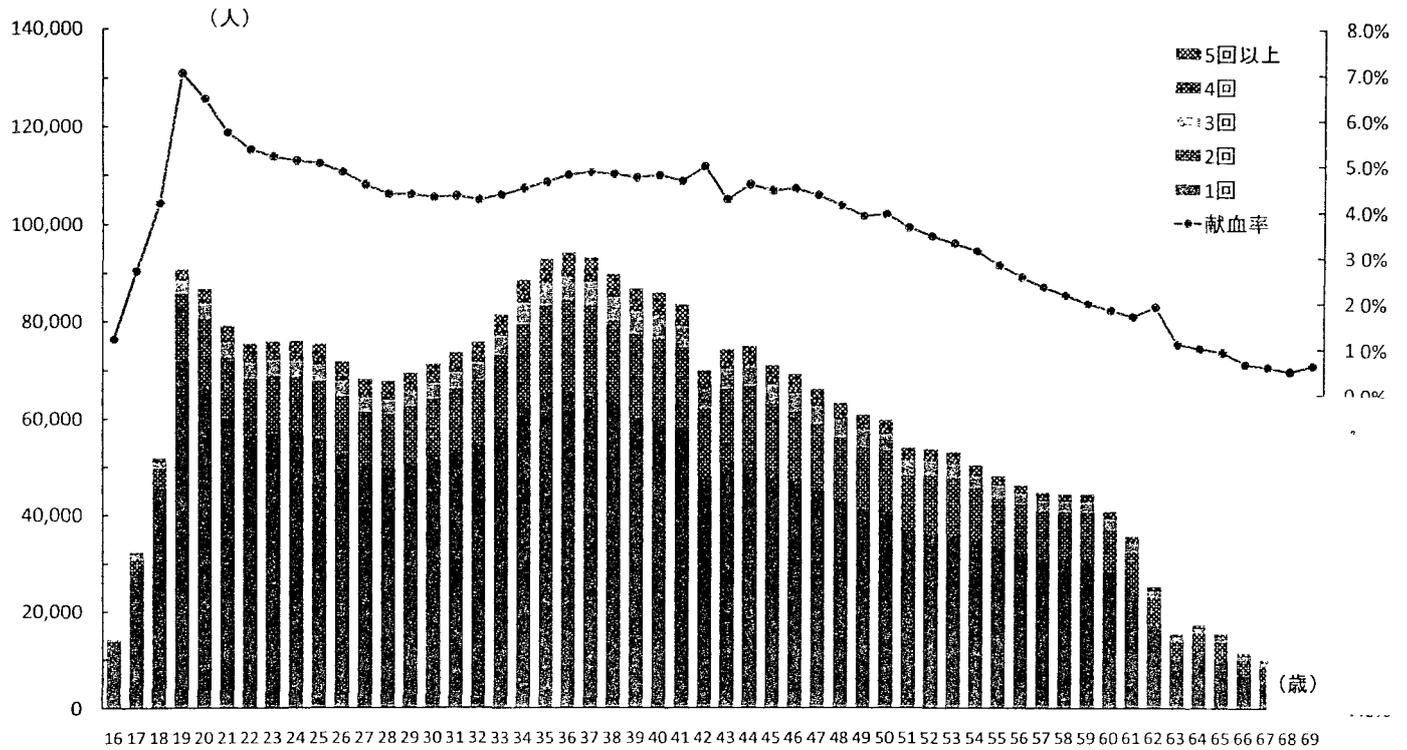
40代	献血回数	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	計
	5回以上	3,130	2,681	2,876	2,866	2,714	2,744	2,660	2,521	2,456	2,302	26,950
4回	1,047	883	941	953	859	851	839	781	705	716	8,575	
3回	4,110	3,546	3,914	3,902	3,693	3,731	3,452	3,500	3,364	3,131	36,343	
2回	16,410	13,795	14,572	14,804	14,479	14,093	13,505	12,907	12,795	12,357	139,717	
1回	57,590	47,547	50,205	50,779	48,124	46,349	44,644	42,603	41,459	40,853	470,153	
計	82,287	68,452	72,508	73,304	69,869	67,768	65,100	62,312	60,779	59,359	681,738	
献血率	4.6%	4.8%	4.1%	4.5%	4.4%	4.4%	4.3%	4.0%	3.9%	3.9%	4.3%	
総人口(万人)	180.4	141.5	175.5	164.5	160.2	155.1	153.1	154.4	157.5	153.2	1,595.4	

50代	献血回数	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	計
	5回以上	2,032	1,910	1,809	1,749	1,660	1,394	1,114	1,085	1,161	1,098	15,012
4回	612	601	525	545	509	465	375	379	403	348	4,762	
3回	2,931	2,743	2,741	2,561	2,404	2,276	2,152	2,158	2,209	2,175	24,350	
2回	11,133	11,483	11,203	10,792	10,305	10,099	9,854	9,904	10,026	9,308	104,107	
1回	37,005	36,782	36,860	36,006	34,903	33,847	32,707	33,113	33,160	31,535	345,918	
計	53,713	53,519	53,138	51,653	49,781	48,081	46,202	46,639	46,959	44,464	494,149	
献血率	3.6%	3.4%	3.3%	3.2%	2.9%	2.6%	2.4%	2.2%	2.0%	2.0%	2.7%	
総人口(万人)	149.3	157.2	162.7	162.8	173.2	182.9	194.3	209.2	229.3	227.6	1,848.5	

60代	献血回数	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	計
	5回以上	1,012	722	448	550	596	544	538	451	403	515	5,779
4回	363	209	148	170	189	187	168	131	117	128	1,810	
3回	1,993	1,396	953	1,073	1,170	983	904	718	560	626	10,376	
2回	8,259	5,773	3,658	4,000	4,059	3,526	2,956	2,266	1,701	1,729	37,927	
1回	28,786	19,306	11,801	13,605	13,201	9,731	7,367	5,528	3,849	4,822	117,996	
計	40,413	27,406	17,008	19,398	19,215	14,971	11,933	9,094	6,630	7,820	173,888	
献血率	1.9%	2.0%	1.2%	1.1%	1.1%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.5%	1.1%	
総人口(万人)	216.1	135.4	145.6	177.6	172.5	176.9	171.7	156.0	135.3	143.9	1,631.0	

合計	献血回数	計	献血率	総人口(万人)
5回以上	108,237	3.5%	8,964.0	
4回	39,886			
3回	148,988			
2回	581,119			
1回	2,263,554			
計	3,141,784			

平成20年度 年齢別実献血者数の推移(年間献血回数別)



10代	献血回数	16歳	17歳	18歳	19歳	計
	5≤	41	227	533	1,552	2,353
4	124	433	496	822	1,875	
3	293	874	1,268	2,760	5,195	
2	1,075	3,141	4,403	13,642	22,261	
1	12,779	27,757	45,144	71,997	157,677	
計	14,312	32,432	51,844	90,773	189,361	
献血率	1.2%	2.7%	4.2%	7.0%	3.8%	
総人口(万人)	121.3	121.1	124.5	129.5	496.4	

20代	献血回数	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	計
	5≤	2,089	2,370	2,767	2,745	2,979	3,021	2,916	2,798	2,898	2,786	27,369
4	1,022	1,068	1,225	1,119	1,201	1,238	1,151	1,055	1,083	1,088	11,250	
3	3,044	3,107	3,219	3,112	3,287	3,374	3,178	3,117	3,055	3,204	31,697	
2	13,678	12,320	11,750	11,532	11,803	11,768	11,674	11,129	11,392	11,768	118,814	
1	66,874	60,255	56,549	57,358	56,763	56,008	52,885	50,147	49,361	50,617	556,817	
計	86,707	79,120	75,510	75,866	76,033	75,409	71,804	68,246	67,789	69,463	745,947	
献血率	6.5%	5.7%	5.3%	5.2%	5.1%	5.0%	4.8%	4.6%	4.4%	4.4%	5.1%	
総人口(万人)	134.4	138.6	141.5	146.5	149.5	150.0	148.3	149.6	155.6	159.5	1,473.5	

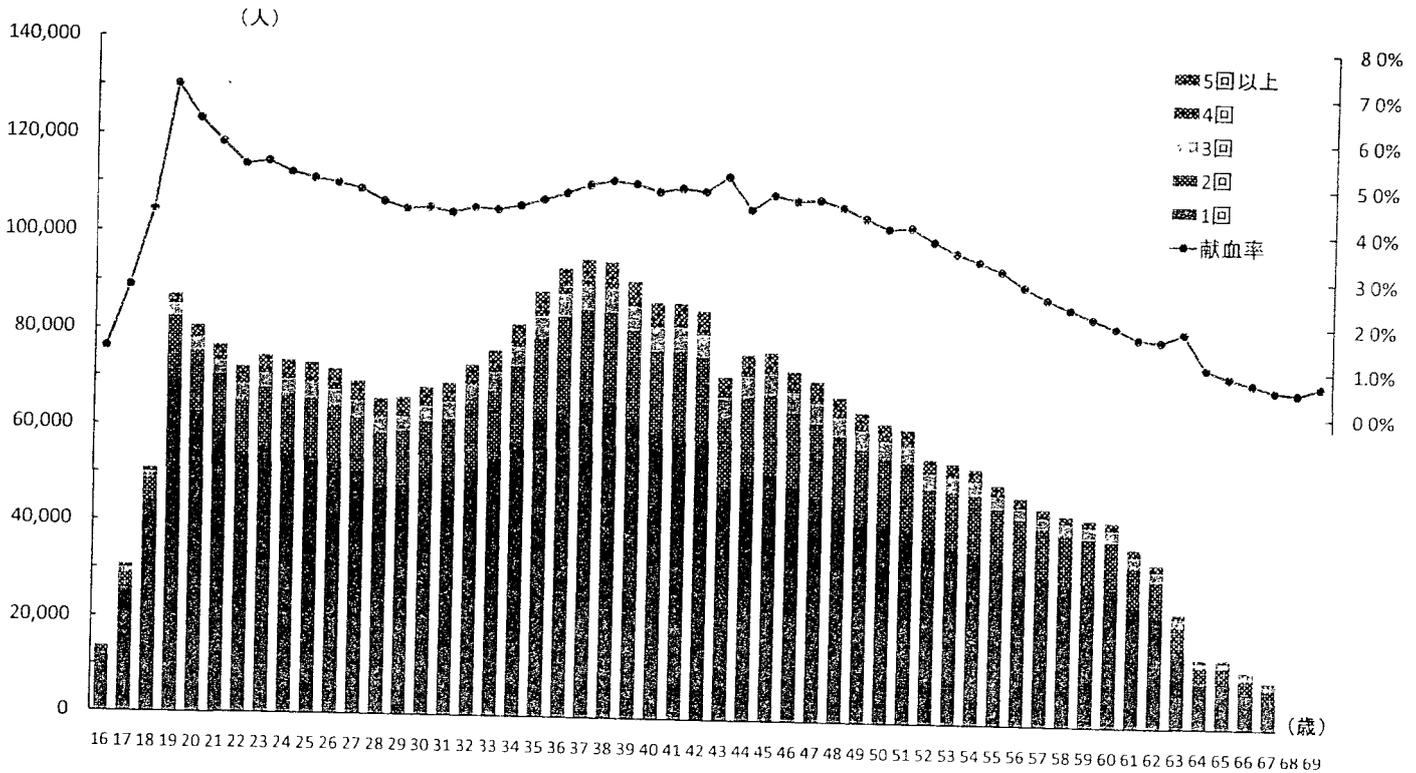
30代	献血回数	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	計
	5≤	2,937	3,062	3,114	3,335	3,594	3,691	3,842	3,772	3,738	3,630	34,715
4	1,064	1,078	1,137	1,147	1,285	1,371	1,276	1,326	1,202	1,193	12,079	
3	3,283	3,412	3,672	4,026	4,422	4,703	4,772	4,858	4,696	4,517	42,361	
2	12,017	12,927	13,722	14,848	16,467	17,622	18,194	17,870	17,411	17,139	158,217	
1	51,982	53,166	54,098	58,009	62,804	65,479	66,126	65,353	62,681	60,232	599,930	
計	71,283	73,645	75,743	81,365	88,572	92,866	94,210	93,179	89,728	86,711	847,302	
献血率	4.3%	4.3%	4.2%	4.3%	4.5%	4.6%	4.8%	4.8%	4.8%	4.7%	4.6%	
総人口(万人)	165.9	170.4	178.8	187.4	197.1	200.8	196.9	192.4	186.9	183.9	1,860.5	

40代	献血回数	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	計
	5≤	3,717	3,451	2,927	3,157	3,179	3,011	3,108	2,886	2,733	2,576	30,745
4	1,172	1,084	931	968	916	939	901	827	810	709	9,257	
3	4,591	4,357	3,930	4,134	4,114	3,981	3,934	3,760	3,719	3,542	40,062	
2	16,961	16,757	14,313	15,209	15,690	14,876	14,586	14,018	13,217	12,917	148,544	
1	59,454	57,762	47,820	50,841	50,964	48,191	46,671	44,770	42,751	41,156	490,380	
計	85,895	83,411	69,921	74,309	74,863	70,998	69,200	66,261	63,230	60,900	718,988	
献血率	4.8%	4.6%	5.0%	4.2%	4.6%	4.4%	4.5%	4.3%	4.1%	3.9%	4.4%	
総人口(万人)	180.5	179.9	141.1	175.1	164.1	159.8	154.6	152.7	153.9	157.0	1,618.7	

50代	献血回数	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	計
	5≤	2,477	2,142	2,016	1,923	1,862	1,676	1,368	1,254	1,164	1,221	17,103
4	754	650	612	578	507	475	408	416	346	361	5,107	
3	3,335	3,036	2,893	2,887	2,572	2,424	2,225	2,196	2,189	2,252	26,009	
2	12,714	11,560	11,789	11,450	10,809	10,249	10,038	9,581	9,810	9,808	107,808	
1	40,561	36,597	36,429	36,296	34,656	33,431	32,189	31,290	30,904	30,723	343,076	
計	59,841	53,985	53,739	53,134	50,406	48,255	46,228	44,737	44,413	44,365	499,103	
献血率	3.9%	3.6%	3.4%	3.3%	3.1%	2.8%	2.5%	2.3%	2.1%	1.9%	2.8%	
総人口(万人)	152.7	148.7	156.6	162.0	162.1	172.5	182.1	193.3	208.0	228.0	1,766.0	

60代	献血回数	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	計	合計
	5≤	1,205	1,111	729	500	573	627	572	523	461	572	6,873	119,158
4	385	359	217	151	169	175	139	155	110	135	1,995	41,563	
3	2,147	1,936	1,412	900	1,063	1,068	919	875	691	663	11,674	156,998	
2	8,682	7,673	5,563	3,466	3,720	3,733	2,945	2,635	1,971	2,018	42,406	598,050	
1	28,442	24,739	17,456	10,502	11,905	9,999	6,907	5,957	4,607	5,089	125,603	2,273,483	
計	40,861	35,818	25,377	15,519	17,430	15,602	11,482	10,145	7,840	8,477	188,551	3,189,252	
献血率	1.8%	1.7%	1.9%	1.1%	1.0%	0.9%	0.7%	0.6%	0.5%	0.6%	1.1%	3.6%	
総人口(万人)	226.1	214.6	134.5	144.5	176.2	171.0	175.2	170.0	154.2	133.7	1,700.0	8,915.1	

平成21年度 年齢別実献血者数の推移(年間献血回数別)



10代	献血回数	16歳	17歳	18歳	19歳	計
	5回以上	62	230	514	1,419	2,225
4回	143	470	497	768	1,878	
3回	317	946	1,302	2,587	5,152	
2回	1,108	3,136	4,473	13,040	21,757	
1回	12,112	25,921	44,145	69,365	151,543	
計	13,742	30,703	50,931	87,179	182,555	
献血率	1.2%	2.5%	4.2%	7.0%	3.7%	
総人口(万人)	119.0	121.2	121.6	125.3	487.1	

20代	献血回数	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	計
	5回以上	1,877	2,375	2,649	2,710	2,899	2,982	3,109	3,050	2,827	2,974	27,452
4回	910	1,017	1,178	1,119	1,177	1,274	1,246	1,128	1,109	1,061	11,219	
3回	2,726	2,987	3,209	3,168	3,244	3,301	3,356	3,210	3,204	3,165	31,570	
2回	12,732	11,931	11,258	11,510	11,696	11,797	11,835	11,587	11,127	11,499	116,972	
1回	62,408	58,260	53,878	56,021	54,534	53,718	52,272	50,364	47,610	47,469	536,534	
計	80,653	76,570	72,172	74,528	73,550	73,072	71,818	69,339	65,877	66,168	723,747	
献血率	6.2%	5.7%	5.2%	5.3%	5.0%	4.9%	4.8%	4.7%	4.4%	4.3%	5.0%	
総人口(万人)	130.2	134.7	138.8	141.4	146.3	149.0	149.4	147.8	149.0	155.1	1,441.7	

30代	献血回数	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	計
	5回以上	2,961	2,984	3,249	3,401	3,530	3,909	4,058	4,145	4,252	4,053	36,542
4回	962	1,071	1,074	1,174	1,200	1,253	1,308	1,369	1,346	1,260	12,017	
3回	3,252	3,437	3,678	3,943	4,295	4,660	4,838	5,058	5,025	5,013	43,199	
2回	11,852	12,278	13,268	14,156	15,393	16,796	18,041	18,610	18,902	18,226	157,522	
1回	49,272	49,558	51,899	53,543	57,405	62,135	65,393	66,304	65,518	62,649	583,676	
計	68,299	69,328	73,168	76,217	81,823	88,753	93,638	95,486	95,043	91,201	832,956	
献血率	4.3%	4.2%	4.3%	4.3%	4.4%	4.5%	4.7%	4.9%	5.0%	4.9%	4.6%	
総人口(万人)	158.9	165.3	169.8	178.3	186.9	196.6	200.2	196.4	191.8	186.4	1,830.6	

40代	献血回数	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	計
	5回以上	3,957	3,842	3,836	3,263	3,454	3,458	3,397	3,421	3,153	3,003	34,784
4回	1,186	1,145	1,122	962	1,027	994	885	945	877	807	9,950	
3回	4,943	5,025	4,708	4,221	4,530	4,589	4,216	4,311	4,046	3,908	44,497	
2回	17,277	17,846	17,536	14,931	16,208	16,266	15,884	15,443	14,621	13,949	159,781	
1回	59,420	58,889	58,017	48,198	51,281	51,551	48,542	46,810	45,019	43,111	510,838	
計	86,783	86,747	85,219	71,575	76,320	76,858	72,924	70,930	67,716	64,778	759,850	
献血率	4.7%	4.8%	4.8%	5.1%	4.4%	4.7%	4.6%	4.6%	4.4%	4.2%	4.6%	
総人口(万人)	183.5	180.0	179.3	140.7	174.6	163.6	159.3	154.1	152.2	153.4	1,640.7	

50代	献血回数	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	計
	5回以上	2,852	2,612	2,360	2,196	1,993	1,790	1,609	1,429	1,278	1,197	19,316
4回	774	783	641	583	611	500	454	436	361	372	5,515	
3回	3,809	3,582	3,270	3,122	2,904	2,788	2,524	2,364	2,359	2,446	29,168	
2回	13,718	13,327	12,125	12,008	11,906	11,000	10,503	10,170	9,895	9,589	114,241	
1回	41,397	41,105	36,935	36,591	36,076	34,212	32,693	31,153	30,311	29,787	350,260	
計	62,550	61,409	55,331	54,500	53,490	50,290	47,783	45,552	44,204	43,391	518,500	
献血率	4.0%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%	2.8%	2.5%	2.3%	2.1%	3.1%	
総人口(万人)	156.4	152.1	148.1	156.0	161.3	161.4	171.7	181.2	192.2	206.8	1,687.2	

60代	献血回数	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	計	合計
	5回以上	1,299	1,231	1,156	749	506	574	597	545	536	724	7,917	128,236
4回	358	397	317	231	140	166	178	143	144	185	2,259	42,838	
3回	2,452	2,244	2,095	1,569	951	1,065	1,045	870	814	898	14,003	167,589	
2回	9,459	8,275	7,601	5,383	3,394	3,637	3,234	2,609	2,337	2,453	48,382	618,655	
1回	29,482	25,427	23,239	16,249	9,729	9,376	7,220	5,845	5,082	6,188	137,837	2,270,688	
計	43,050	37,574	34,408	24,181	14,720	14,818	12,274	10,012	8,913	10,448	210,398	3,228,006	
献血率	1.9%	1.7%	1.6%	1.8%	1.0%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.7%	1.2%	3.6%	
総人口(万人)	226.6	224.7	213.1	133.5	143.4	174.7	169.5	173.5	168.2	152.6	1,779.8	8,867.1	

都道府県別献血率の推移

都道府県別献血率の推移(平成18年度～平成21年度)

施設名	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度							
	献血者数	管内総人口	献血率	献血可能* 年齢人口	献血率	献血者数	管内総人口	献血率	献血可能* 年齢人口	献血率	献血者数	管内総人口	献血率	献血可能* 年齢人口	献血率	献血者数	管内総人口	献血率	献血可能* 年齢人口	献血率
北海道	285,074	5,629,970	5.1%	4,007,000	7.1%	273,350	5,600,705	4.9%	3,963,000	6.9%	273,801	5,571,770	4.9%	3,913,000	7.0%	287,152	5,543,556	5.2%	3,874,000	7.4%
青森	64,186	1,460,144	4.4%	989,000	6.5%	57,616	1,445,592	4.0%	975,000	5.9%	57,646	1,430,543	4.0%	959,000	6.0%	56,773	1,417,278	4.0%	951,000	6.0%
岩手	49,712	1,388,164	3.6%	931,000	5.3%	50,432	1,377,666	3.7%	920,000	5.5%	55,178	1,366,652	4.0%	910,000	6.1%	57,465	1,355,205	4.2%	901,000	6.4%
宮城	94,135	2,344,569	4.0%	1,678,000	5.6%	87,654	2,340,485	3.7%	1,667,000	5.3%	91,468	2,334,874	3.9%	1,653,000	5.5%	92,058	2,330,898	3.9%	1,644,000	5.6%
秋田	50,453	1,156,356	4.4%	761,000	6.6%	49,697	1,143,829	4.3%	751,000	6.6%	49,395	1,130,823	4.4%	739,000	6.7%	51,321	1,118,735	4.6%	729,000	7.0%
山形	38,998	1,212,163	3.2%	805,000	4.8%	36,507	1,204,099	3.0%	801,000	4.6%	40,510	1,194,071	3.4%	791,000	5.1%	43,505	1,185,100	3.7%	784,000	5.5%
福島	88,213	2,100,851	4.2%	1,415,000	6.2%	86,936	2,089,439	4.2%	1,402,000	6.2%	90,521	2,075,555	4.4%	1,389,000	6.5%	91,854	2,063,769	4.5%	1,376,000	6.7%
茨城	95,355	2,988,533	3.2%	2,132,000	4.5%	96,306	2,986,115	3.2%	2,123,000	4.5%	100,335	2,982,000	3.4%	2,111,000	4.8%	98,976	2,979,639	3.3%	2,106,000	4.7%
栃木	74,683	2,009,498	3.7%	1,443,000	5.2%	77,023	2,006,363	3.8%	1,435,000	5.4%	81,373	2,006,701	4.1%	1,430,000	5.7%	84,147	2,003,954	4.2%	1,423,000	5.9%
群馬	87,041	2,020,037	4.3%	1,420,000	6.1%	83,545	2,016,236	4.1%	1,416,000	5.9%	84,219	2,012,151	4.2%	1,408,000	6.0%	86,326	2,008,842	4.3%	1,403,000	6.2%
埼玉	237,491	7,019,919	3.4%	5,292,000	4.5%	243,578	7,042,044	3.5%	5,272,000	4.6%	248,442	7,067,336	3.5%	5,255,000	4.7%	260,934	7,096,269	3.7%	5,237,000	5.0%
千葉	217,190	6,035,658	3.6%	4,507,000	4.8%	225,726	6,058,248	3.7%	4,493,000	5.0%	232,889	6,090,799	3.8%	4,477,000	5.2%	244,762	6,124,453	4.0%	4,462,000	5.5%
東京	563,756	12,273,376	4.6%	9,505,000	5.9%	555,960	12,361,736	4.5%	9,508,000	5.8%	583,899	12,462,196	4.7%	9,497,000	6.1%	619,303	12,548,258	4.9%	9,464,000	6.5%
神奈川	273,290	8,693,373	3.1%	6,586,000	4.1%	291,750	8,741,025	3.3%	6,574,000	4.4%	310,533	8,798,289	3.5%	6,555,000	4.7%	316,864	8,848,329	3.6%	6,537,000	4.8%
新潟	93,010	2,438,482	3.8%	1,651,000	5.6%	94,293	2,425,683	3.9%	1,637,000	5.8%	96,145	2,413,103	4.0%	1,622,000	5.9%	96,453	2,401,803	4.0%	1,609,000	6.0%
山梨	36,108	879,239	4.1%	608,000	5.9%	34,170	875,621	3.9%	604,000	5.7%	35,255	871,481	4.0%	597,000	5.9%	34,842	867,122	4.0%	595,000	5.9%
富山	39,982	1,114,714	3.6%	764,000	5.2%	41,529	1,110,713	3.7%	759,000	5.5%	41,421	1,106,340	3.7%	752,000	5.5%	39,757	1,101,637	3.6%	748,000	5.3%
石川	51,098	1,171,106	4.4%	820,000	6.2%	48,213	1,169,249	4.1%	815,000	5.9%	52,662	1,167,151	4.5%	811,000	6.5%	52,184	1,165,013	4.5%	807,000	6.5%
福井	34,954	821,073	4.3%	556,000	6.3%	33,166	818,443	4.1%	552,000	6.0%	34,056	815,344	4.2%	548,000	6.2%	33,800	812,444	4.2%	544,000	6.2%
長野	81,092	2,190,874	3.7%	1,476,000	5.5%	77,959	2,184,596	3.6%	1,468,000	5.3%	80,046	2,176,808	3.7%	1,457,000	5.5%	82,011	2,168,926	3.8%	1,447,000	5.7%
岐阜	76,914	2,105,011	3.7%	1,476,000	5.2%	74,450	2,100,413	3.5%	1,468,000	5.1%	73,517	2,095,484	3.5%	1,461,000	5.0%	76,141	2,089,413	3.6%	1,451,000	5.2%
静岡	138,164	3,775,903	3.7%	2,692,000	5.1%	140,739	3,775,367	3.7%	2,683,000	5.2%	140,365	3,775,400	3.7%	2,669,000	5.3%	139,585	3,773,694	3.7%	2,656,000	5.3%
愛知	272,589	7,106,585	3.8%	5,339,000	5.1%	273,151	7,145,614	3.8%	5,345,000	5.1%	296,293	7,185,744	4.1%	5,349,000	5.5%	313,180	7,218,350	4.3%	5,335,000	5.9%
三重	59,169	1,857,456	3.2%	1,308,000	4.5%	58,947	1,857,090	3.2%	1,305,000	4.5%	58,744	1,856,282	3.2%	1,304,000	4.5%	57,545	1,854,050	3.1%	1,297,000	4.4%
滋賀	46,153	1,365,393	3.4%	991,000	4.7%	44,694	1,371,577	3.3%	992,000	4.5%	45,370	1,377,886	3.3%	994,000	4.6%	45,872	1,382,321	3.3%	995,000	4.6%
京都	103,930	2,566,420	4.0%	1,901,000	5.5%	103,773	2,562,282	4.1%	1,882,000	5.5%	109,166	2,558,542	4.3%	1,864,000	5.9%	114,561	2,555,650	4.5%	1,849,000	6.2%
大阪	376,838	8,663,719	4.3%	6,442,000	5.8%	378,410	8,665,105	4.4%	6,388,000	5.9%	392,161	8,670,302	4.5%	6,336,000	6.2%	402,675	8,676,622	4.6%	6,293,000	6.4%
兵庫	193,417	5,576,784	3.5%	3,984,000	4.9%	191,575	5,580,497	3.4%	3,958,000	4.8%	201,028	5,582,230	3.6%	3,936,000	5.1%	208,360	5,586,254	3.7%	3,920,000	5.3%
奈良	53,791	1,430,366	3.8%	1,014,000	5.3%	50,957	1,425,308	3.6%	1,004,000	5.1%	52,319	1,419,626	3.7%	994,000	5.3%	54,716	1,414,970	3.9%	987,000	5.5%
和歌山	42,368	1,061,559	4.0%	702,000	6.0%	41,353	1,053,896	3.9%	692,000	6.0%	42,412	1,045,973	4.1%	685,000	6.2%	43,886	1,038,729	4.2%	678,000	6.5%
鳥取	27,273	610,434	4.5%	408,000	6.7%	25,292	606,695	4.2%	407,000	6.2%	23,873	602,411	4.0%	401,000	6.0%	25,264	598,485	4.2%	398,000	6.3%
島根	30,747	744,677	4.1%	480,000	6.4%	26,574	739,080	3.6%	475,000	5.6%	24,827	733,123	3.4%	469,000	5.3%	26,936	727,793	3.7%	463,000	5.8%
岡山	83,860	1,954,919	4.3%	1,343,000	6.2%	81,700	1,951,420	4.2%	1,334,000	6.1%	84,673	1,948,250	4.3%	1,327,000	6.4%	86,584	1,943,864	4.5%	1,319,000	6.6%
広島	127,120	2,870,907	4.4%	2,019,000	6.3%	119,844	2,867,423	4.2%	2,006,000	6.0%	124,154	2,864,167	4.3%	1,995,000	6.2%	130,817	2,859,300	4.6%	1,985,000	6.6%
山口	62,628	1,499,002	4.2%	1,006,000	6.2%	61,353	1,489,176	4.1%	995,000	6.2%	61,792	1,479,840	4.2%	984,000	6.3%	61,061	1,471,715	4.1%	976,000	6.3%
徳島	31,249	816,321	3.8%	551,000	5.7%	28,661	811,678	3.5%	542,000	5.3%	31,510	805,951	3.9%	536,000	5.9%	32,636	800,825	4.1%	532,000	6.1%
香川	41,794	1,026,088	4.1%	688,000	6.1%	41,209	1,023,074	4.0%	684,000	6.0%	41,198	1,019,333	4.0%	678,000	6.1%	40,819	1,016,540	4.0%	674,000	6.1%
愛媛	55,025	1,486,946	3.7%	995,000	5.8%	57,448	1,479,775	3.9%	984,000	5.8%	59,492	1,471,510	4.0%	979,000	6.1%	62,603	1,464,307	4.3%	970,000	6.5%
高知	35,734	799,121	4.5%	529,000	6.8%	34,443	792,419	4.3%	521,000	6.6%	35,878	784,038	4.6%	513,000	7.0%	39,138	777,080	5.0%	506,000	7.7%
福岡	182,008	5,028,026	3.6%	3,607,000	5.0%	187,194	5,030,311	3.7%	3,588,000	5.2%	193,780	5,030,818	3.9%	3,569,000	5.4%	197,401	5,031,870	3.9%	3,552,000	5.6%
佐賀	34,251	872,302	3.9%	584,000	5.9%	34,549	868,562	4.0%	578,000	6.0%	36,285	864,738	4.2%	575,000	6.3%	35,063	862,156	4.1%	573,000	6.1%
長崎	58,080	1,494,879	3.9%	991,000	5.9%	58,291	1,482,146	3.9%	981,000	5.9%	61,616	1,469,197	4.2%	969,000	6.4%	65,511	1,458,404	4.5%	963,000	6.8%
熊本	81,768	1,858,522	4.4%	1,241,000	6.6%	80,565	1,852,073	4.3%	1,227,000	6.6%	82,929	1,844,644	4.5%	1,216,000	6.8%	84,773	1,839,309	4.6%	1,208,000	7.0%
大分	45,686	1,221,714	3.7%	817,000	5.6%	46,733	1,218,066	3.8%	812,000	5.8%	47,160	1,215,388	3.9%	806,000	5.9%	48,567	1,211,042	4.0%	800,000	6.1%
宮崎	45,324	1,172,402	3.9%	776,000	5.8%	43,473	1,167,509	3.7%	770,000	5.6%	46,374	1,161,026	4.0%	761,000	6.1%	46,399	1,155,844	4.0%	757,000	6.1%
鹿児島	69,133	1,759,650	3.9%	1,161,000	6.0%	69,741	1,751,510	4.0%	1,147,000	6.1%	71,226	1,739,075	4.1%	1,133,000	6.3%	73,438	1,728,554	4.2%	1,126,000	6.5%
沖縄	52,176	1,381,820	3.8%	957,000	5.5%	55,405	1,387,518	4.0%	956,000	5.8%	59,476	1,391,215	4.3%	956,000	6.2%	59,412	1,397,812	4.3%	958,000	6.2%
合計	4,983,009	127,055,025	3.9%	91,354,000	5.5%	4,955,954	127,053,471	3.9%	90,852,000	5.5%	5,137,612	127,066,178	4.0%	90,341,000	5.7%	5,303,431	127,076,183	4.2%	89,878,000	5.9%

*献血可能年齢人口(16～69歳)は統計上把握できないことから、生産年齢人口(15～69歳)を計上

*都道府県別の献血可能年齢人口(16～69歳)は千人単位で四捨五入した値が統計上示されていることから、全国の当該人口を千人単位で四捨五入した値と一致しない

Young Blood Donation percentage, by country

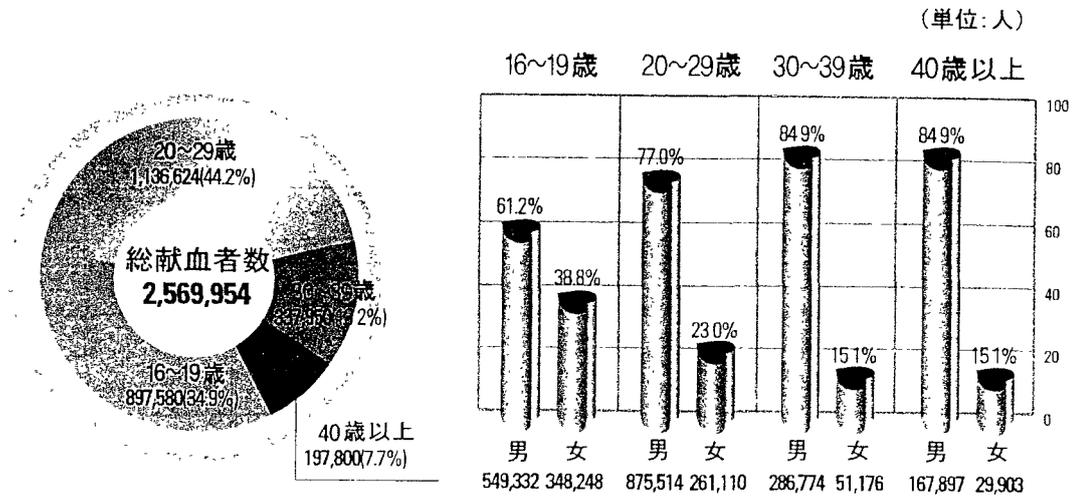
No	Country	% of Donations from donors under 18 years old	% of Donations from donors in age group 18 to 24	TOTAL % of Donations from donors under 25 years old
1	Lao People's Democratic Republic	52.00%	37.00%	89.00%
2	Zimbabwe	33.33%	46.84%	80.17%
3	Malawi	13.04%	64.28%	77.32%
4	Botswana	55.00%	22.00%	77.00%
5	Viet Nam	0.00%	72.01%	72.01%
6	Republic of Korea	25.54%	43.75%	69.30%
7	Burkina Faso	5.29%	56.52%	61.81%
8	Guinea	11.00%	48.00%	59.00%
9	Tuvalu	5.26%	52.63%	57.89%
10	Jordan	0.00%	57.17%	57.17%
11	Papua New Guinea	16.17%	40.17%	56.34%
12	Kiribati	0.00%	55.22%	55.22%
13	India	0.00%	52.83%	52.83%
14	Gabon	3.00%	48.45%	51.45%
15	Bhutan	0.46%	48.83%	49.29%
16	Mali	0.01%	48.05%	48.06%
17	Sao Tome and Principe	0.16%	46.75%	46.91%
18	Cambodia	6.21%	40.48%	46.69%
19	Myanmar	13.59%	29.70%	43.29%
20	Poland	0.01%	40.53%	40.55%
21	Mauritania	0.00%	38.74%	38.74%
22	Luxembourg	0.00%	36.00%	36.00%
23	Maldives	0.00%	35.64%	35.64%
24	Vanuatu	0.00%	35.29%	35.29%
25	Ethiopia	11.76%	22.19%	33.95%
26	Estonia	0.00%	32.62%	32.62%
27	Tajikistan	0.00%	31.10%	31.10%
28	Kyrgyzstan	0.00%	30.00%	30.00%
29	Singapore	2.33%	26.57%	28.90%
30	Morocco	0.00%	28.00%	28.00%
31	Micronesia (Federated States of)	2.51%	23.94%	26.45%
32	Iran (Islamic Republic of)	7.56%	18.41%	25.97%
33	Tonga	0.85%	24.96%	25.81%
34	Brunei Darussalam	0.00%	24.75%	24.75%
35	Democratic Republic of the Congo	0.00%	22.00%	22.00%
36	United States of America	8.09%	13.73%	21.82%
37	Bosnia and Herzegovina	0.00%	21.47%	21.47%
38	South Africa	9.08%	12.38%	21.45%
39	New Zealand	6.72%	12.78%	19.50%
40	Uzbekistan	0.00%	18.40%	18.40%
41	Republic of Moldova	0.00%	18.00%	18.00%
42	Japan	1.54%	16.05%	17.59%
43	Seychelles	0.55%	17.03%	17.58%
44	Mauritius	0.64%	16.44%	17.09%
45	Australia	3.39%	12.83%	16.21%
46	Georgia	0.00%	16.16%	16.16%
47	Qatar	0.22%	15.41%	15.64%
48	Austria	0.00%	14.95%	14.95%
49	Ireland	0.00%	14.83%	14.83%
50	Iceland	0.00%	14.17%	14.17%
51	Slovenia	0.00%	14.00%	14.00%
52	Cook Islands	0.93%	12.62%	13.55%
53	Kuwait	0.00%	13.53%	13.53%
54	Belgium	0.00%	12.92%	12.92%
55	Timor-Leste	0.00%	11.11%	11.11%
56	Afghanistan	0.00%	11.11%	11.11%
57	Armenia	0.00%	11.08%	11.08%
58	Finland	0.00%	10.96%	10.96%
59	Bahrain	0.00%	8.90%	8.90%
60	Azerbaijan	0.00%	8.33%	8.33%

*Source: Data reported by countries to WHO Global Database on Blood Safety, 2008 (updated 10 June 2010)

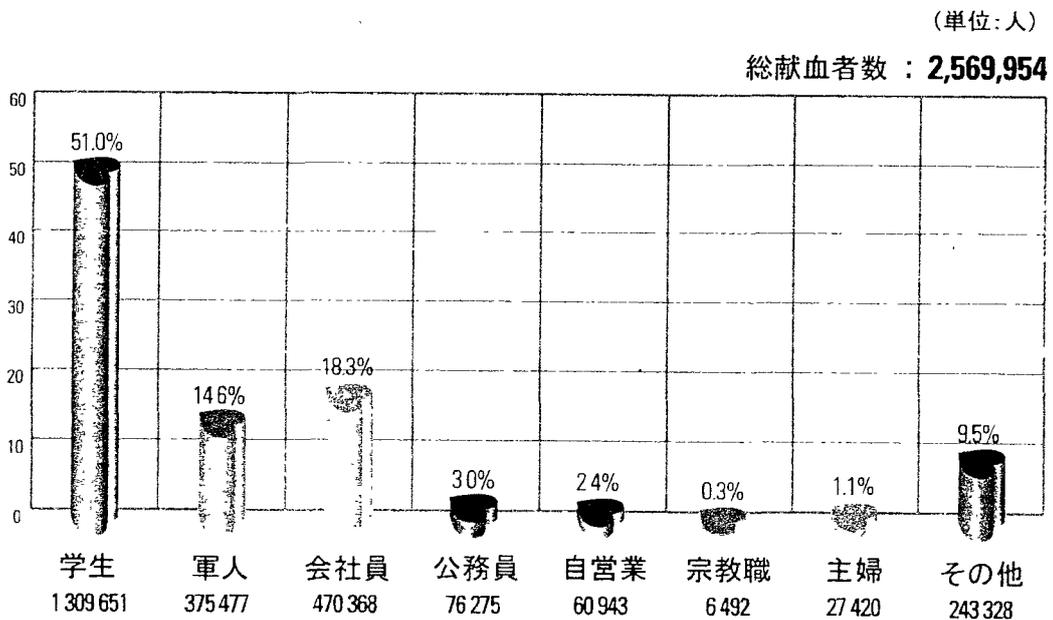
2009年度 韓国における年齢別・職業別献血状況

2009年度 献血事業統計(韓国)より抜粋

■ 年齢別



■ 職業別



BLOOD DONORS AND BLOOD COLLECTION

The aging population poses a global challenge for blood services

Akif Ali, Marja-Kaisa Auvinen, and Jukka Rautonen

BACKGROUND: The Finnish transfusion registry data suggest some alarming signals and future challenges that are likely to be faced by transfusion services as populations continue to age

STUDY DESIGN AND METHODS: Computerized data collection was performed on all potentially transfused patients in Finland, thus covering ~70% of all blood usage. We simulated the red blood cell (RBC) usage according to the Finnish practice on different age groups but the population demographics from other countries

RESULTS: The Finnish data demonstrate a marked increase in RBC consumption with increasing age among recipients, beginning at around 50 years of age. The 70- to 80-year-olds have an eightfold higher RBC consumption than 20- to 40-year-olds.

CONCLUSIONS: A large part of the variation in RBC use per capita can be explained by the age distribution of the different populations and not by the different national and regional treatment policies and protocols used. If current efforts are not enough to serve the changing population demographic and if increasing demands for blood products cannot be met, there is need to consider unprecedented measures such as reversing certain donor deferrals or even exporting blood from country to country

Since 2002, the Finnish Red Cross Blood Service has had a permanent national database to study transfusion recipients and blood use in Finland. Analysis of this database and of the blood-dependency ratio (the number of donors vs. the number of transfusion recipients) suggests some alarming signals and future challenges that are likely to be faced by trans-

fusion services all over the world as populations continue to age. It is apparent that judging the transfusion practices and success of blood conservation programs in different countries by simply calculating blood usage per capita may be an inadequate or even misleading practice when trying to plan for blood service requirements in aging populations.

MATERIALS AND METHODS

Data were collected from the Finnish Transfusion Registry ("Optimal Use of Blood"), which was established in 2002. Finnish Red Cross is the only blood supplier in Finland thus providing approximately 400,000 blood components annually to the Finnish hospitals. The data are collected on all potentially transfused patients using computer programs designed for data collection (VOK data extraction system, MediWare Corporation Oy, Helsinki, Finland; and Oulu data extraction system, Oulu, Finland). The validation of data has been described previously.¹ Currently 10 hospital districts provide data to the registry. Altogether these hospital districts transfuse approximately 63% to 70% of blood components produced in Finland. There are no general national transfusion guidelines in Finland. However, the international practice and guidelines are followed and usually implemented to local, hospital instructions. Also, benchmarking activities have been arranged for the participants of the optimal use of blood. The data collected constitute of all 1) patients for whom blood components were ordered (i.e., not necessarily transfused); 2) surgical patients (i.e., all patients visiting operating room; the Nomesco classification of surgical procedures [NCSP], 2003. Chapters A, B, C, D, E, F, G, H, J, K, L, M, N, P, Q, and Y, excluding small and diagnostic procedures in Sections T, U, X, and Z, which are usually used in combination with a code for the main procedure); and 3) patients with hospital visits with any malignant disorder, anemia of any cause, obstetric disorders, fetal or neonatal hemorrhagic and hematologic disorders, and burns and trauma (International Classification of Diseases [ICD-10], main diagnoses C81-C96, D45-D47, D50-D77, O00-O99 8, P50-P61, S00-S99-9, T00-T07, T20-T32, T79-T98, and Z99 9) Patient data are extracted from existing electronic medical registers and blood banking databases (Progesa, MAK-SYSTEM, Paris, France). Computer files provided information on hospital admissions, diagnoses, surgical

From the Finnish Red Cross Blood Service, Helsinki, Finland.

Address reprint requests to Marja-Kaisa Auvinen, Finnish Red Cross Blood Service, Kivihaantie 7, 00310 Helsinki, Finland; e-mail: marja-kaisa.auvinen@hts.redcross.fi

Received for publication August 10, 2009; revision received September 11, 2009, and accepted September 11, 2009.

doi: 10.1111/j.1537-2995.2009.02490.x

TRANSFUSION 2010;50:584-588.

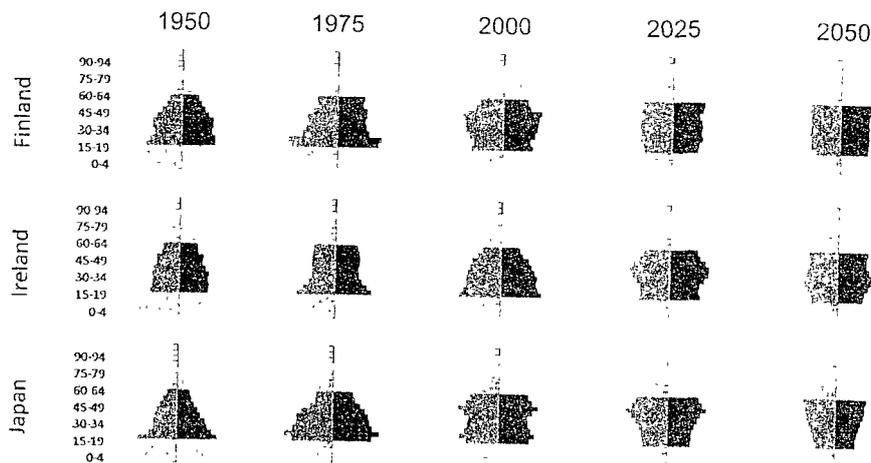


Fig. 1. Examples of population pyramids for Finland, Ireland, and Japan for different age groups based on WHO statistics years 1950 to 2000 and prognosis for 2025 to 2050. The left side of the pyramid indicates the proportion of males and the right side of females in the country.

operations, test results, and blood components as well as on transfusions. For data security reasons, a coding computer program (DWcrypt, Datawell Oy, Espoo, Finland) encrypted patients' personal identification numbers using different passwords for each hospital district. The data were analyzed with the analyzer reporting program (Ecomed, Datawell Oy) and a statistical software package (SPSS, SPSS, Inc., Chicago, IL). The simulation analyses are based on red blood cell (RBC) usage in Finland. Per-capita usage was calculated by dividing the annual RBC use of persons at certain age with the total number of living individuals of the same age. We simulated the RBC usage according to the Finnish practice on different age groups but the population demographics from other countries, which can be presented as population pyramid, that is, distribution of different age groups within a population. Some examples of population pyramids for Finland, Ireland, and Japan are shown in Fig. 1. For the population demographics, the data from Statistics Finland and WHO were used. The data for Finland consist of population statistics on the size and structure of the permanently resident population and related changes, such as births, deaths, marriages, migration, as well as population projections. For the other countries the WHO (United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division, <http://www.un.org/esa/population/unpop.htm>) data consist of world population prospects, population by age groups, medium-fertility assumption based on UN Population Division's quinquennial estimates and projections.

RESULTS

The Finnish data demonstrate a marked increase in RBC consumption with increasing age among recipients,

beginning at around 50 years of age. The elderly consistently have a much higher RBC consumption than younger people: 70- to 80-year-olds have an eightfold higher RBC consumption than 20- to 40-year-olds (Fig. 2). Many other countries show similar trends in RBC usage.²⁻⁴

According to Council of Europe 2004 statistics, the use of RBC products varies considerably among the European Union member states (4-73 per 1000 inhabitants; mean, 37 per 1000 inhabitants).⁵ A large part of the variation in RBC use per capita can be explained by the age distribution of the different populations and not by the different national and regional treatment policies and protocols used. Figure 3 shows the simulated RBC usage per capita in selected countries in 1950 to 2050, based on historical and predicted age distribution figures (from the UN Population Division) and the age-distributed variation of blood usage (as RBC units) in Finland between 2002 and 2006. This simulation assumes the same transfusion practices for each country. In Finland, 55% of RBCs are used for patients treated for surgical diagnoses or interventions, whereas 45% are used during conservative treatment periods. For the platelets, the proportions are 32 and 68%, respectively. Of all blood used in Finland, 21% goes for treatment of hematologic malignancies (ICD-10 classes C81-C97), 16% for treatment of cardiac and circulatory system diseases (I00-I99), and 12% for the treatment of tumors (C00-C80 and D00-D48). The population trend during the period 1950 to 2050 predicts an increase in RBC requirements in most countries. Very few countries exhibit a period of decreasing need for simulated RBCs, and since 1990 the simulated RBC use shows increase in all the countries.

We have calculated the blood-dependency ratio in selected countries for the period 1950 to 2050, describing the number of age-noneligible donors that each

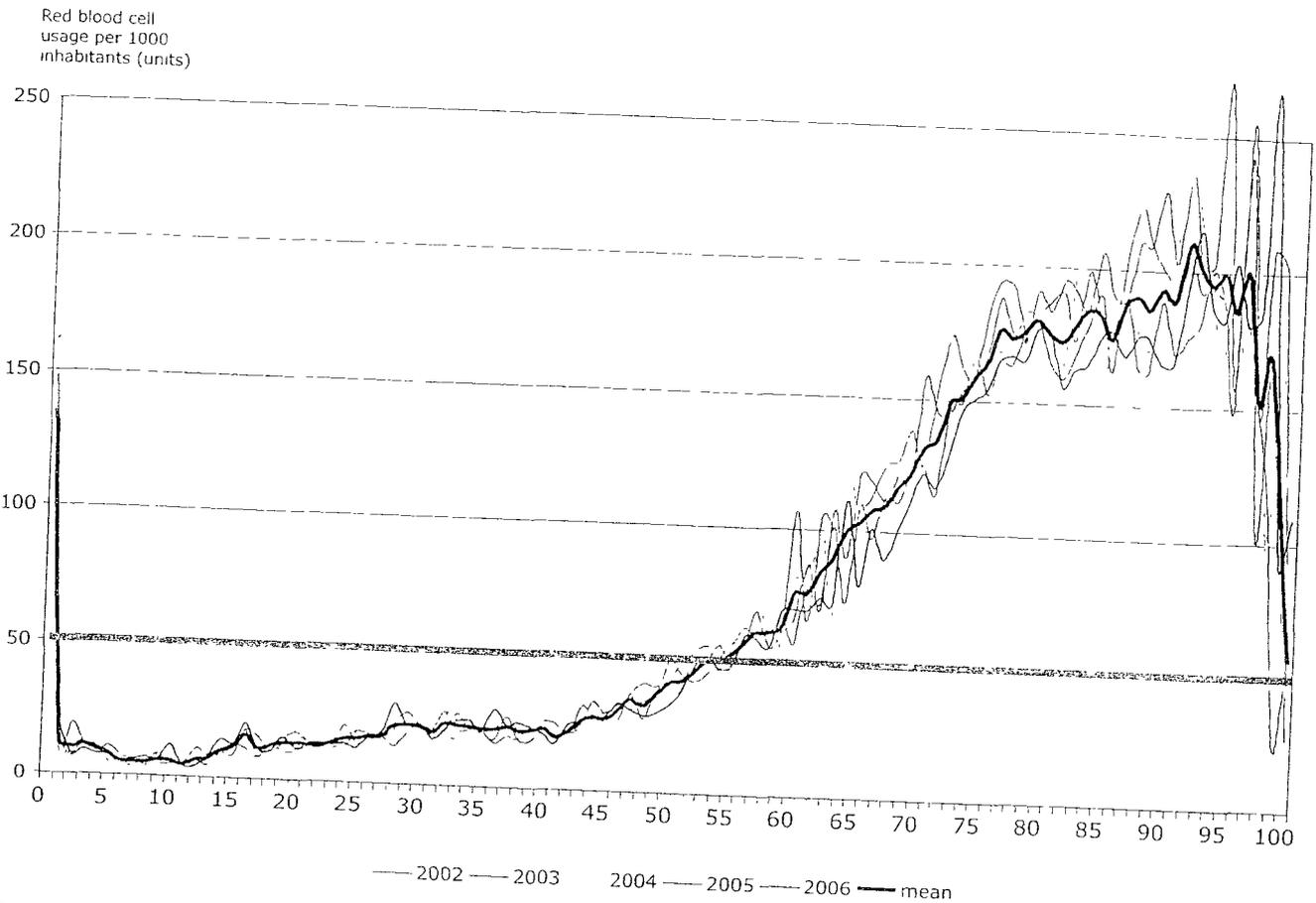


Fig. 2. RBC usage per capita by age in Finland 2002 to 2006. Current annual RBC usage in Finland is 50 units per 1000 inhabitants.

age-eligible donor needs to support in addition to him/herself (Fig. 4). Most countries had a local maximum during the 1960s and 1970s and a subsequent decline until the 1990s.

In conclusion, the increasing proportion of elderly people in most countries will result in a major increase in the demand for RBC products globally, unless treatment modalities can be improved and, consequently, the dependence on RBC transfusions decreased. One might argue that future elderly populations will be healthier than their current counterparts. However, the Finnish data have not shown a decrease in the transfusion needs of elderly people. For the prevalence of the diseases treated with transfusions, we compared WHO data on mortality and morbidity (<http://www.who.int/whosis/whostat/2009/en/index.html>). For cardiovascular diseases, which is the second largest diagnostic group among transfused patients in Finland, the countries selected for the simulation analyses have similar age-standardized mortality rates. Two exceptions are Russia and Poland, where the mortality rates for cardiovascular diseases are three- and twofold compared with Finland (Table 1). The age-standardized mortality rate for injuries is 64 per 100,000 population in Finland, thus higher than most of

the countries analyzed in this study. However, the causes for death due to injury in Finland are more often connected to toxicity or suicidal behavior than traffic accidents or other such injuries where transfusions would be necessary.⁶

The observed difference of 42% between the lowest (Ireland, 41 RBC units/1000 population) and highest (Japan, 58 RBC units/1000 population) country in this simulation is fully explained by the different national population pyramid. It is clear that although the national data on RBC use are a useful indicator, they are not sufficient to compare transfusion practice among countries. The problem posed by the projected increased demand on blood services due to the aging population is exacerbated by the concomitant decrease in the size and proportion of the population eligible to donate blood in developed countries. Globally, the proportion of people aged more than 65 years in the population is projected to increase from 7.7% in 2010 to 16.5% in 2050,⁷ with the highest increases expected in Eastern Europe and developed countries.

The blood-dependency ratio, describing the number of noneligible donors that each eligible donor needs to support in addition to him- or herself, shows that in most

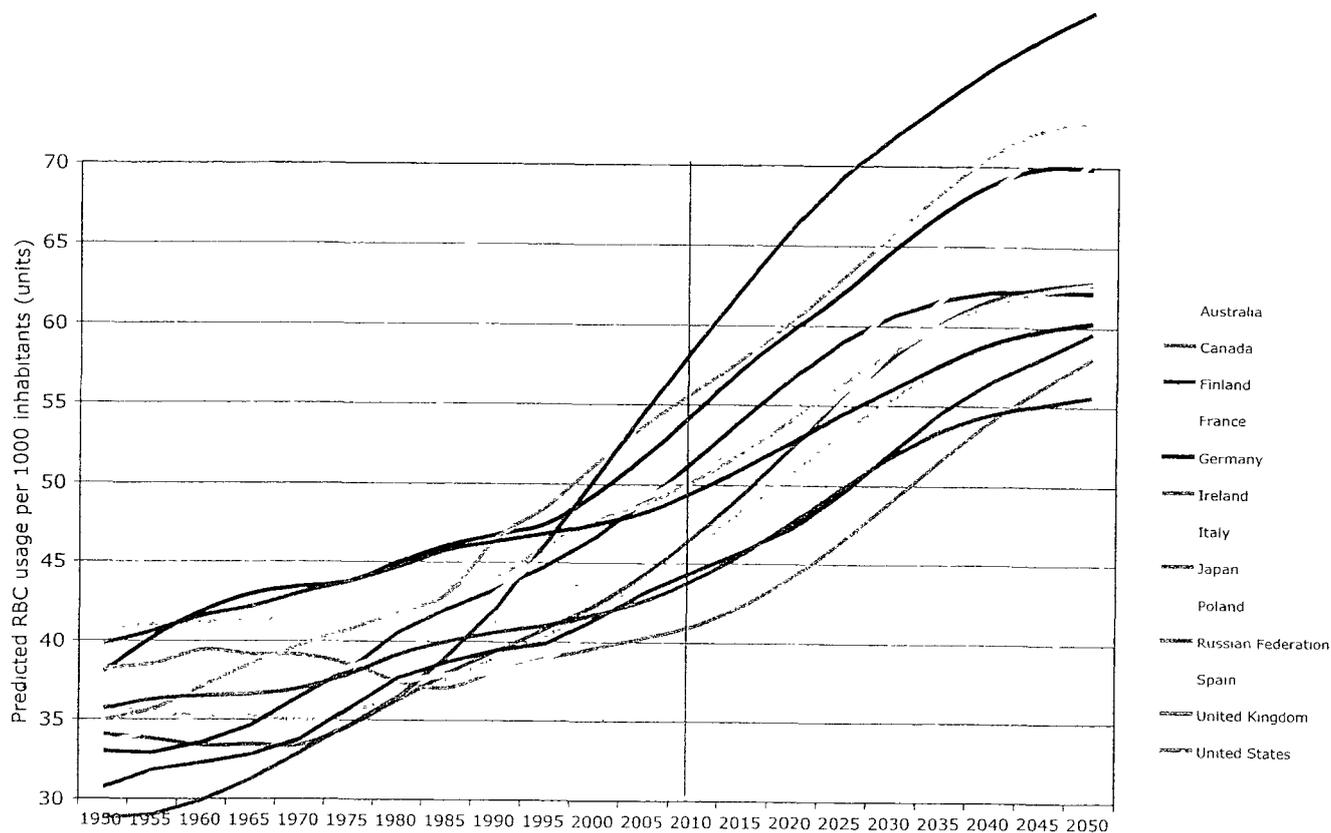


Fig. 3. Simulation of clinical use of RBC units per 1000 population (based on age-distributed variation in blood usage [as RBC units] in Finland between 2002 and 2006).

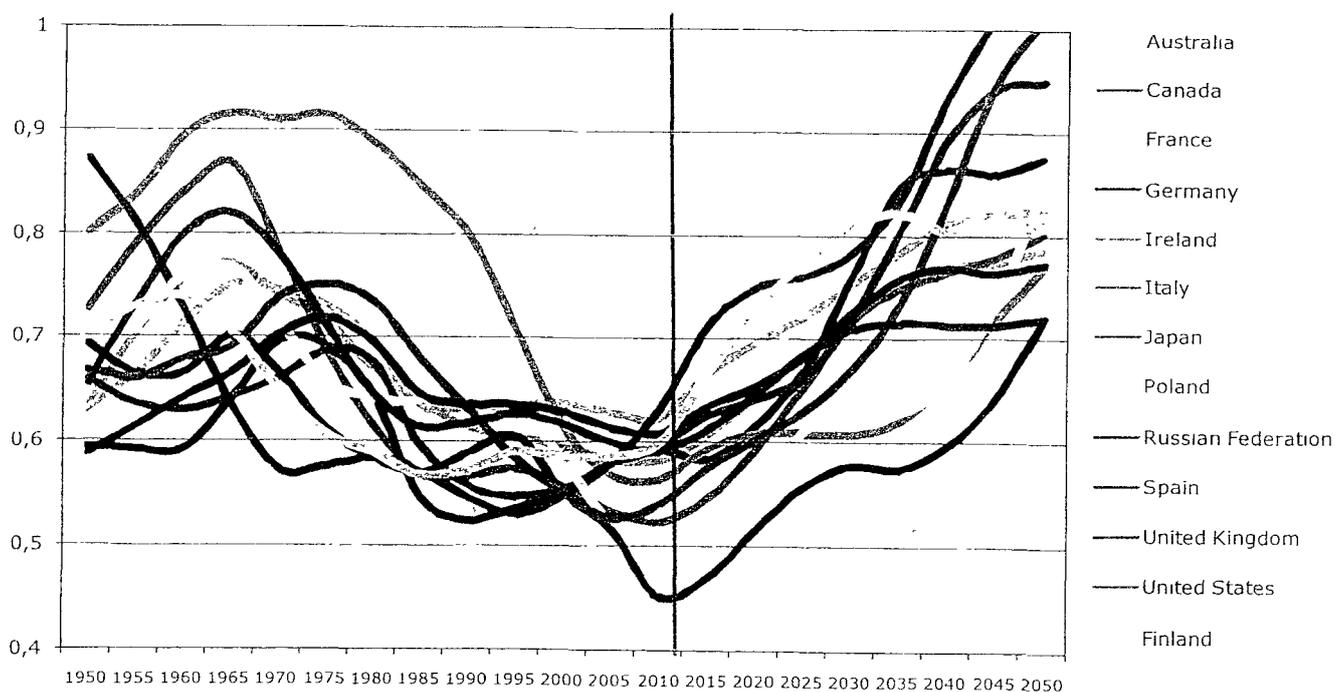


Fig. 4. Blood-dependency ratio in selected countries 1950 to 2050: ratio of age-eligible (18-65 years) to age-noneligible blood donors in the population.

TABLE 1. Age-standardized mortality rate for different causes per 100,000 population year 2004

Location	Cancer	Cardiovascular diseases	Injuries	Noncommunicable diseases
Canada	135	131		
United States of America	133	179	33	374
Finland	113	185	50	450
France	154	123	64	405
Germany	135	199	45	387
Ireland	155	190	28	429
Italy	132	155	30	459
Poland	177	314	29	372
Russian Federation	142	645	54	583
Spain	131	131	218	904
United Kingdom	147	175	30	379
Australia	126	136	26	441
Japan	120	103	32	355
			39	284

countries a local maximum was exceeded during the 1960s and 1970s and a subsequent decline until the 1990s. This suggests that the recruitment of donors has been easier from year to year than during a period of constant ratio. For the future, these projections show an increasing trend for the blood-dependency ratio, suggesting that it will be more difficult to recruit blood donors, exacerbated by the fact that recruitment levels have been relatively good in recent years. Although recruitment of blood donors may appear to have been relatively easy and high in recent years, historically this has not been the case and it is unlikely to be so in the future, as most local blood services will attest. The eligible donor population is limited and radical actions to address this, such as extending the age limits for donation, may have to become a reality in some countries. Already in the United Kingdom, Australia, and some US states, the upper age limit of 70 years for not accepting blood from existing donors has been removed. Also extension of the younger age limit to 17 years has been implemented in some donor centers in Denmark, the United Kingdom, and the United States.

If current efforts to maintain effective national blood services are not enough to serve the changing population demographic and if increasing demands for blood products cannot be met, we may need to consider unprecedented measures. It may include reversing certain donor deferrals, such as previous transfusions or living in certain countries, or even exporting blood from country to country, to meet what is now an established and imperative health care need.

CONFLICT OF INTEREST

The authors declare that they have no conflicts of interest relevant to the manuscript submitted to **TRANSFUSION**.

REFERENCES

1. Palo R, Ali-Melkkilä T, Hanhela R, Jantti V, Krusius T, Lepänen E, Mahlamäki EK, Perhoniemi V, Rajamäki A, Rautonen J, Salmenpera M, Salo H, Salonen I, Savolainen ER, Sjövall S, Suistomaa M, Syrjäla M, Tienhaara A, Vahämurto M, Mäki T. Development of permanent national register of blood component use utilizing electronic hospital information systems. *Vox Sang* 2006;91:140-7.
2. Beguin C, Closon MC, Vandekerckhove P, Baele P. Concentration of transfusion resources on a few pathologies and a few patients: analysis of the comprehensive in-hospital patient database. *Transfusion* 2007;47:217-27.
3. Anderson SA, Menis M, O'Connell K, Burwen DR. Blood use by inpatient elderly population in the United States. *Transfusion* 2007;47:582-92.
4. Wells AW, Mounter PJ, Chapman CE, Stainsby D, Wallis JP. Where does blood go? Prospective observational study of red cell transfusion in north England. *BMJ* 2002;325:803.
5. Van der Poel C, Janssen MP, Borkent-Raven B. Report on the collection, testing and use of blood and blood components in Europe in 2004 [document on the Internet]. Strasbourg: Council of Europe Publishing; 2007 [cited cited 2009 Aug 1]. Available from: URL: http://www.edqm.eu/medias/fichiers/NEW_2004_Report_on_the_.pdf
6. Statistical Yearbook of Finland 2004. p. 674. Statistics Finland. [document on the Internet]. [cited 2009 Aug 1]. Available from: URL: http://pxweb2.stat.fi/sahkoiset_julkaisut/vuosikirja2004_suppea/html/julkaisu.pdf
7. U.S. Census Bureau. Global population composition [document on the Internet]. Washington, DC: U.S. Department of Commerce; 2002. p. 49-53. [cited 2009 Aug 1]. Available from: URL: <http://www.census.gov/prod/2004pubs/wp-02.pdf>. □